

平成 30 年

鳥取県感染症発生動向調査事業報告書

鳥取県福祉保健部健康政策課
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

〔 鳥 取 県 感 染 症 対 策 協 議 会 〕
〔 情 報 解 析 部 会 〕

鳥取県感染症発生動向調査について

鳥取県では感染症の発生・拡大に備えた事前対応型行政の構築の観点から、一類感染症から五類感染症の患者発生動向について、一元的に情報収集、分析及び情報の提供・公開体制を構築するとともに病原体に関する情報についても情報提供しています。

これらの情報は患者への良質かつ適切な医療の提供のために必要なものであり、今後とも患者発生の迅速な把握に努めるとともに、積極的な情報の提供・公開を実施してまいります。

目 次

1	定点把握対象感染症	1
(1)	平成30年の発生状況	2
ア	小児科・インフルエンザ・眼科・基幹定点報告疾病	2
イ	性感染症(STD)定点報告疾病	12
ウ	基幹定点報告疾病	17
エ	定点把握対象感染症の追加・変更・削除の経緯について	17
(2)	冬型感染症のシーズン別報告状況	22
2	全数把握対象感染症	23
(1)	平成30年の発生状況	24
ア	1類感染症	24
イ	2類感染症	24
ウ	3類感染症	24
エ	4類感染症	24
オ	5類感染症	24
カ	全数把握対象感染症の追加・変更・削除の経緯について	24
3	病原体検査状況	27
(1)	病原体検査の概要	28
ア	疾患別、月別検査受入状況	28
イ	疾患別病原体分離・検出状況	28
(2)	病原体定点対象感染症等	35
ア	月別ウイルス分離・検出状況	35
イ	月別細菌分離・状況	40
(3)	全数把握対象感染症	40
ア	ウイルス検査の概要	40
イ	リケッチア検査の概要	40
ウ	細菌検査の概要	41
4	鳥取県感染症発生動向調査情報（月報） （鳥取県感染症対策協議会情報解析部会）	42

5 参考資料	5 5
指定届出機関	
(定点把握対象の5類感染症患者定点医療機関)一覽	5 6
指定届出機関	
(定点把握対象の5類感染症病原体定点医療機関)一覽	5 7
鳥取県感染症対策協議会情報解析部会委員名簿	5 8
平成30年感染症発生動向調査概要	5 9

1 定点把握对象感染症

(1) 平成30年の発生状況

ア 小児科・インフルエンザ・眼科・基幹定点報告疾病

(ア) 平成25年～29年の報告数平均との比較(P3表1, P6～12図1参照)

平成25年～29年の報告数平均と比較して増加した疾病は、細菌性髄膜炎9件（過去5年平均比161%）、インフルエンザ11,226件（同比150%）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎4,502件（同比106%）、感染性胃腸炎6,355件（同比105%）であった。

減少した主な疾病は、伝染性紅斑23件（同比12%）、流行性耳下腺炎55件（同比14%）、水痘191件（同比33%）、マイコプラズマ肺炎27件（同比35%）であった。

(イ) 全国状況との比較(P3表2参照)

無菌性髄膜炎の1定点・1週当たりの患者報告数は0.07人であり、全国平均（同0.03人）の2.33倍であった。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎では、同4.56であり、全国平均（同2.18人）の2.09倍、感染性胃腸炎（ロタウイルスによるものに限る）では、同0.24人であり、全国平均（同0.13人）の1.85倍、細菌性髄膜炎では、同0.03人であり、全国平均（同0.02人）の1.5倍、インフルエンザでは、同7.44人であり、全国平均（同7.37人）の1.01倍であった。

(ウ) 全県的な状況(P4表3参照)

平成30年の報告患者数は25,228件であり、平成29年より1,102件の増加であった。

平成30年報告患者の状況					平成29年の患者報告状況	
順位	疾病名	件数	全件数に占める割合	平成29年との比較	順位	件数
					1	インフルエンザ (注1)
2	感染性胃腸炎 (注1)	6,355件	25.2%	1,328件増	3	5,027件
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4,502件	17.8%	919件減	2	5,421件
4	RSウイルス感染症	626件	2.5%	291件減	5	917件
5	手足口病	597件	2.4%	1,484件減	4	2,081件
6	ヘルパンギーナ	508件	2.0%	108件減	8	616件
7	咽頭結膜熱	452件	1.8%	197件減	7	649件
8	突発性発疹	422件	1.7%	12件増	9	410件
9	水痘	191件	0.8%	215件減	10	406件
10	流行性角結膜炎	150件	0.6%	132件減	11	282件
	その他	199件				1,114件
	合計	25,228件	—	1,102件増		24,126件

※注1 冬期間に患者報告が多く見られる疾病（インフルエンザ、感染性胃腸炎）については、別集計し22ページに掲載しました。

(エ) 地区別の状況(P3表1参照)

地区別にみた報告患者数は、東部地区が8,974件(35.6%)、中部地区は6,802件(27%)、西部地区は9,452件(37.5%)であった。

東部地区		中部地区		西部地区	
1	インフルエンザ 3,949件	1	インフルエンザ 3,034件	1	インフルエンザ 4,243件
2	感染性胃腸炎 2,623件	2	感染性胃腸炎 1,761件	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2,103件
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 1,490件	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 909件	3	感染性胃腸炎 1,971件
4	手足口病 164件	4	手足口病 301件	4	RSウイルス感染症 284件
5	RSウイルス感染症 159件	5	RSウイルス感染症 183件	5	咽頭結膜熱 220件
6	その他 589件	6	その他 614件	6	その他 631件
	合計 8,974件		合計 6,802件		合計 9,452件

(オ) 年齢別の状況

年齢別の患者発生状況はP5表4のとおりであった。

表1 感染症患者年次別発生状況

疾患名	年次別患者数																								平成25～29年平均患者数			
	平成25年				平成26年				平成27年				平成28年				平成29年				平成30年							
	全県	東部	中部	西部	全県	東部	中部	西部	全県	東部	中部	西部	全県	東部	中部	西部	全県	東部	中部	西部	全県	東部	中部	西部	全県	東部	中部	西部
インフルエンザ	6,932	2,198	2,022	2,712	7,677	2,709	2,054	2,914	7,399	2,758	2,138	2,503	8,087	3,535	1,689	2,863	7,203	2,506	2,197	2,500	11,228	3,949	3,034	4,243	7,460	2,741	2,020	2,698
咽頭結膜熱	440	51	167	222	634	215	167	252	686	103	292	291	584	106	167	311	649	269	159	221	452	103	129	220	599	149	190	259
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3,004	1,611	556	837	2,851	1,002	474	1,375	5,407	2,148	1,387	1,872	4,504	1,722	703	2,079	5,421	1,863	1,004	2,554	4,502	1,490	909	2,103	4,237	1,669	825	1,743
感染性胃腸炎	6,044	2,756	1,628	1,660	5,534	2,577	1,673	1,284	6,841	3,290	2,043	1,508	6,956	3,491	1,690	1,775	5,027	2,012	1,514	1,501	6,355	2,623	1,761	1,971	6,080	2,825	1,710	1,546
水痘	1,114	430	384	300	799	372	171	256	243	64	70	109	335	135	96	104	406	113	181	112	191	54	64	73	579	223	180	176
手足口病	2,475	884	723	868	70	15	22	33	2,001	821	664	516	242	120	39	83	2,081	639	633	809	597	164	301	132	1,374	496	416	462
伝染性紅斑	28	16	5	7	17	6	6	5	263	121	102	40	584	279	132	173	32	18	5	9	23	6	5	12	185	88	50	47
突発性発疹	467	165	152	150	521	168	168	185	468	144	159	165	429	167	129	133	410	146	126	138	422	141	126	155	459	158	147	154
百日咳	23	13	6	4	51	21	16	14	38	21	11	6	23	18	2	3	29	21	2	6	△	△	△	△	33	19	7	7
ヘルパンギーナ	413	95	176	142	1,099	313	405	381	392	98	123	171	868	347	245	276	616	172	211	233	508	145	177	186	678	205	232	241
流行性耳下腺炎	59	5	11	43	201	163	12	26	174	138	9	27	651	565	45	41	871	543	274	54	55	10	30	15	391	283	70	38
RSウイルス感染症	826	250	244	332	902	323	244	335	1,096	302	320	474	750	271	130	349	917	281	230	406	626	159	183	284	898	285	234	379
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	5	3	0	2	0	0	0	0	12	7	0	5	2	0	0	2	3	3	0	0	4	2	0	2
流行性角結膜炎	54	11	40	3	80	46	33	1	212	144	60	8	264	188	64	12	282	227	35	20	150	52	54	44	178	123	46	9
細菌性髄膜炎	7	1	1	5	4	0	1	3	1	1	0	0	7	4	1	2	9	0	1	8	9	5	0	4	6	1	1	4
無菌性髄膜炎	36	15	3	18	9	5	0	4	18	16	1	1	15	10	0	5	28	17	5	6	19	15	1	3	21	13	2	7
マイコプラズマ肺炎	57	30	23	4	15	8	7	0	54	22	28	4	194	68	116	10	68	33	34	1	27	21	4	2	78	32	42	4
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎 (ロタウイルスによるものに限る)	1	1	0	0	69	42	27	0	107	22	85	0	137	87	49	1	75	20	52	3	62	33	24	5	78	34	43	1
計	21,980	8,532	6,141	7,307	20,538	7,988	5,480	7,070	25,400	10,213	7,492	7,695	24,644	11,122	5,297	8,225	24,126	8,880	6,663	8,583	25,228	8,974	6,802	9,452	23,338	9,347	6,215	7,776

※平均患者数については、数字の丸めにより全県と東・中・西部の合計に差がある場合があります。

表2 県内発生状況の全国・中国五県との比較(定点当たり)

疾患名	鳥取県	中国五県	全国
インフルエンザ	7.44	6.64	7.37
咽頭結膜熱	0.46	0.36	0.45
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4.56	2.59	2.18
感染性胃腸炎	6.43	6.02	5.16
水痘	0.19	0.24	0.34
手足口病	0.60	0.78	0.75
伝染性紅斑	0.02	0.05	0.30
突発性発疹	0.43	0.43	0.43
ヘルパンギーナ	0.51	0.44	0.60

疾患名	鳥取県	中国五県	全国
流行性耳下腺炎	0.06	0.11	0.14
RSウイルス感染症	0.63	0.73	0.73
急性出血性結膜炎	0.01	0.01	0.01
流行性角結膜炎	0.58	0.61	0.84
細菌性髄膜炎	0.03	0.02	0.02
無菌性髄膜炎	0.07	0.04	0.03
マイコプラズマ肺炎	0.10	0.08	0.22
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0.00	0.00	0.01
感染性胃腸炎 (ロタウイルスによるものに限る)	0.24	0.19	0.13

※全国数値及び中国五県の数値は国立感染症研究所の発表値(速報値)を集計したものである。

表3 感染症患者月別発生状況(全県)

第1週から第52週まで(平成30年1月1日～平成30年12月30日)(下段:月別定点あたり)

疾患名\月 (月週数)	1月 (4)	2月 (4)	3月 (5)	4月 (4)	5月 (5)	6月 (4)	7月 (4)	8月 (5)	9月 (4)	10月 (4)	11月 (5)	12月 (4)	合計 (52)
インフルエンザ	4,464 153.93	4,301 148.31	1,571 54.17	352 12.14	176 6.07	5 0.17	14 0.48	8 0.28	4 0.14	4 0.14	48 1.66	279 9.62	11,226 387.10
咽頭結膜熱	25 1.32	28 1.47	30 1.58	29 1.53	89 4.68	73 3.84	40 2.11	21 1.11	30 1.58	21 1.11	25 1.32	41 2.16	452 23.79
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	487 25.63	516 27.16	464 24.42	405 21.32	458 24.11	354 18.63	309 16.26	278 14.63	266 14.00	228 12.00	397 20.89	340 17.89	4,502 236.95
感染性胃腸炎	289 15.21	385 20.26	515 27.11	779 41.00	1,051 55.32	891 46.89	591 31.11	472 24.84	262 13.79	233 12.26	417 21.95	470 24.74	6,355 334.47
水痘	26 1.37	12 0.63	12 0.63	17 0.89	26 1.37	14 0.74	5 0.26	4 0.21	8 0.42	11 0.58	20 1.05	36 1.89	191 10.05
手足口病	16 0.84	8 0.42	3 0.16	1 0.05	15 0.79	11 0.58	23 1.21	43 2.26	92 4.84	160 8.42	140 7.37	85 4.47	597 31.42
伝染性紅斑	1 0.05	8 0.42	4 0.21	3 1.00	1 0.05	0 0.00	1 0.05	1 0.05	1 0.05	1 0.05	1 0.05	1 0.05	23 1.21
突発性発疹	25 1.32	19 1.00	37 1.95	36 1.89	56 2.95	51 2.68	45 2.37	36 1.89	37 1.95	28 1.47	19 1.00	33 1.74	422 22.21
ヘルパンギーナ	2 0.11	0 0.00	2 0.11	0 0.00	2 0.11	30 1.58	106 5.58	156 8.21	71 3.74	80 4.21	48 2.53	11 0.58	508 26.74
流行性耳下腺炎	1 0.05	0 0.00	2 0.11	6 0.32	14 0.74	6 0.32	9 0.47	5 0.26	1 0.05	2 0.11	6 0.32	3 0.16	55 2.89
RSウイルス感染症	17 0.89	7 0.37	26 1.37	21 1.11	36 1.89	19 1.00	20 1.05	105 5.53	175 9.21	106 5.58	52 2.74	42 2.21	626 32.95
急性出血性結膜炎	0 0.00	0 0.00	1 0.20	1 0.20	1 0.20	0 0.00	3 0.60						
流行性角結膜炎	4 0.80	1 0.20	4 0.80	4 0.80	6 1.20	4 0.80	1 0.20	13 2.60	28 5.60	13 2.60	38 7.60	34 6.80	150 30.00
細菌性髄膜炎	1 0.20	1 0.20	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.40	0 0.00	2 0.40	0 0.00	1 0.20	1 0.20	1 0.20	9 1.80
無菌性髄膜炎	1 0.20	0 0.00	2 0.40	0 0.00	0 0.00	2 0.40	5 1.00	3 0.60	5 1.00	0 0.00	0 0.00	1 0.20	19 3.80
マイコプラズマ肺炎	2 0.40	1 0.20	2 0.40	2 0.40	1 0.20	2 0.40	0 0.00	5 1.00	0 0.00	2 0.40	6 1.20	4 0.80	27 5.40
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.20	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.20
感染性胃腸炎 (ロタウイルスによるものに限る)	1 0.20	0 0.00	7 1.40	29 5.80	13 2.60	2 0.40	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	9 1.80	1 0.20	62 12.40
計	5,362	5,287	2,682	1,685	1,945	1,467	1,169	1,152	980	890	1,227	1,382	25,228

表4 主な感染症の年齢別患者数の分布

第1週から第52週まで(平成30年1月1日～平成30年12月30日)

上段:年齢別の合計

疾患名	～5カ月	～11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	合計
インフルエンザ	33 0.29%	98 0.87%	297 2.65%	388 3.46%	512 4.56%	628 5.59%	720 6.41%	742 6.61%	668 5.95%	587 5.23%	535 4.77%	1,736 15.46%	678 6.04%	465 4.14%	774 6.89%	806 7.18%	526 4.69%	460 4.10%	297 2.65%	276 2.46%	11,226

※インフルエンザ定点数は29定点

上段:年齢別の合計

疾患名	～5カ月	～11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上	合計
咽頭結膜熱	3 0.66%	51 11.28%	198 43.81%	63 13.94%	65 14.38%	26 5.75%	21 4.65%	8 1.77%	4 0.88%	2 0.44%	2 0.44%	5 1.11%	0 0.00%	4 0.88%	452
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2 0.04%	51 1.13%	317 7.04%	448 9.95%	554 12.31%	570 12.66%	526 11.68%	443 9.84%	286 6.35%	261 5.80%	191 4.24%	489 10.86%	125 2.78%	239 5.31%	4,502
感染性胃腸炎	60 0.94%	385 6.06%	1,137 17.89%	862 13.56%	662 10.42%	653 10.28%	558 8.78%	356 5.60%	265 4.17%	229 3.60%	196 3.08%	481 7.57%	92 1.45%	419 6.59%	6,355
水痘	3 1.57%	11 5.76%	21 10.99%	11 5.76%	18 9.42%	38 19.90%	29 15.18%	21 10.99%	19 9.95%	11 5.76%	2 1.05%	7 3.66%	0 0.00%	0 0.00%	191
手足口病	3 0.50%	42 7.04%	228 38.19%	161 26.97%	68 11.39%	42 7.04%	26 4.36%	18 3.02%	4 0.67%	3 0.50%	1 0.17%	1 0.17%	0 0.00%	0 0.00%	597
伝染性紅斑	1 4.35%	0 0.00%	2 8.70%	2 8.70%	6 26.09%	1 4.35%	4 17.39%	1 4.35%	1 4.35%	1 4.35%	1 4.35%	2 8.70%	0 0.00%	1 4.35%	23
突発性発疹	5 1.18%	165 39.10%	211 50.00%	35 8.29%	2 0.47%	2 0.47%	1 0.24%	1 0.24%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	422
ヘルパンギーナ	5 0.98%	58 11.42%	185 36.42%	117 23.03%	73 14.37%	36 7.09%	14 2.76%	8 1.57%	4 0.79%	2 0.39%	3 0.59%	1 0.20%	0 0.00%	2 0.39%	508
流行性耳下腺炎	0 0.00%	0 0.00%	2 3.64%	1 1.82%	6 10.91%	10 18.18%	16 29.09%	11 20.00%	2 3.64%	1 1.82%	2 3.64%	3 5.45%	1 1.82%	0 0.00%	55
RSウイルス感染症	100 15.97%	151 24.12%	248 39.62%	82 13.10%	28 4.47%	11 1.76%	4 0.64%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 0.16%	0 0.00%	0 0.00%	1 0.16%	626
計	182 0.01	914 0.07	2,549 0.19	1,782 0.13	1,482 0.11	1,389 0.10	1,199 0.09	867 0.06	585 0.04	510 0.04	399 0.03	989 0.07	218 0.02	666 0.05	13,731

※小児科定点数は19定点

上段:年齢別の合計

疾患名	～5カ月	～11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	合計
急性出血性結膜炎	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 33.33%	1 33.33%	0 0.00%	1 33.33%	0 0.00%	3
流行性角結膜炎	2 1.33%	2 1.33%	14 9.33%	12 8.00%	4 2.67%	6 4.00%	7 4.67%	4 2.67%	3 2.00%	1 0.67%	1 0.67%	2 1.33%	3 2.00%	21 14.00%	29 19.33%	19 12.67%	12 8.00%	6 4.00%	2 1.33%	150
計	2 0.01	2 0.01	14 0.09	12 0.08	4 0.03	6 0.04	7 0.05	4 0.03	3 0.02	1 0.01	1 0.01	2 0.01	3 0.02	21 0.14	30 0.20	20 0.13	12 0.08	7 0.05	2 0.01	153

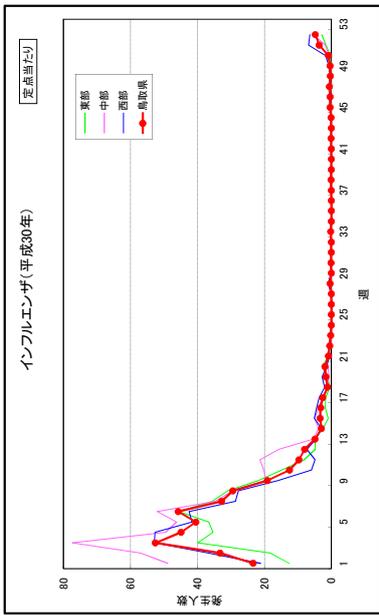
※眼科定点数は5定点

上段:年齢別の合計

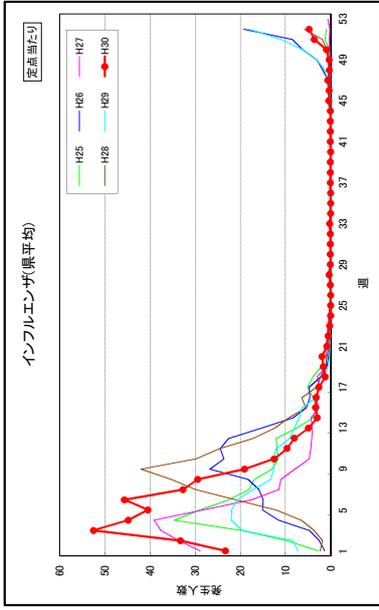
疾患名	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計
細菌性髄膜炎	3 33.33%	0 0.00%	0 0.00%	1 11.11%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 11.11%	0 0.00%	4 44.44%	9
無菌性髄膜炎	1 5.26%	2 10.53%	3 15.79%	1 5.26%	0 0.00%	0 0.00%	3 15.79%	3 15.79%	4 21.05%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	2 10.53%	19
マイコプラズマ肺炎	0 0.00%	7 25.93%	7 25.93%	4 14.81%	1 3.70%	1 3.70%	0 0.00%	0 0.00%	2 7.41%	1 3.70%	1 3.70%	0 0.00%	1 3.70%	0 0.00%	0 0.00%	2 7.41%	27
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 #####	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1
感染性胃腸炎 (ロタウイルスによるものに限る)	6 9.68%	45 72.58%	8 12.90%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 1.61%	0 0.00%	1 1.61%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 1.61%	62
計	10 0.08	54 0.46	18 0.15	6 0.05	1 0.01	1 0.01	4 0.03	3 0.03	7 0.06	1 0.01	2 0.02	0 0.00	1 0.01	1 0.01	0 0.00	9 0.08	118

※基幹定点数は5定点

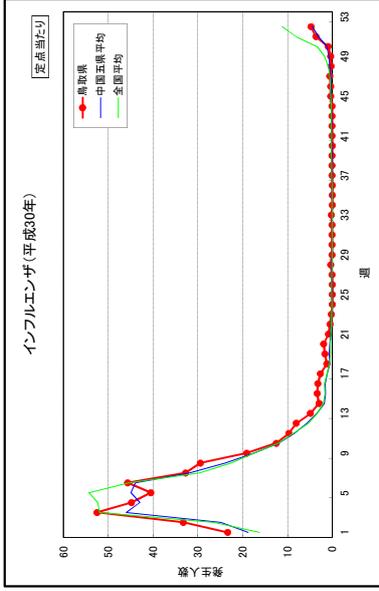
地区別発生状況



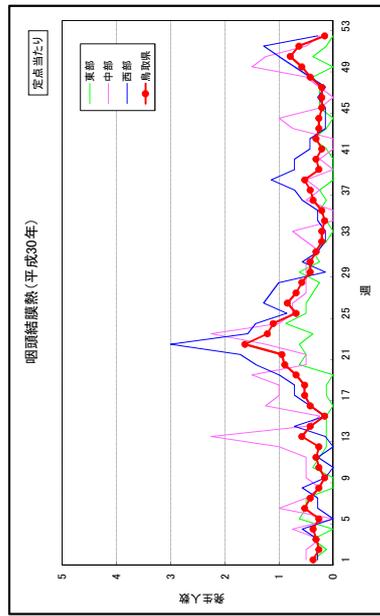
年次別発生状況



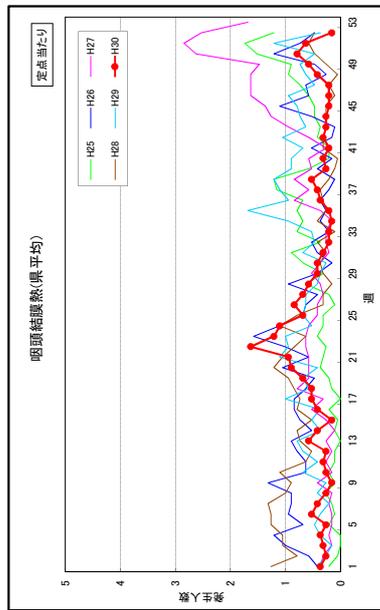
鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較



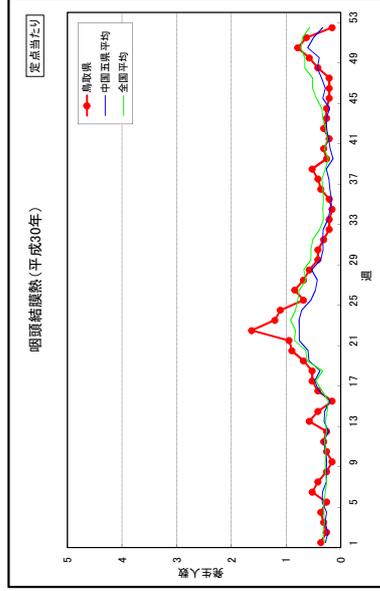
咽頭結核熱(平成30年)



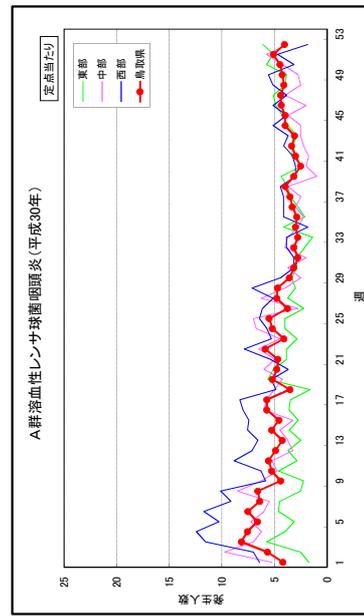
咽頭結核熱(県平均)



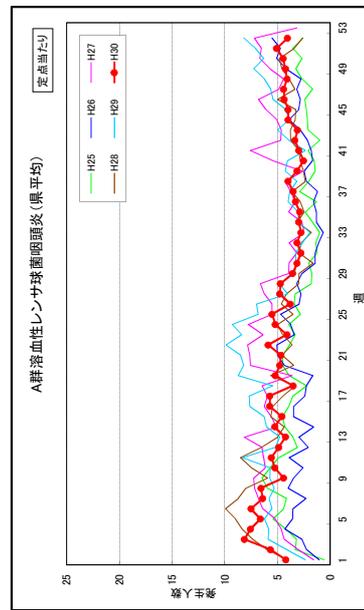
咽頭結核熱(平成30年)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(平成30年)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(県平均)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(平成30年)

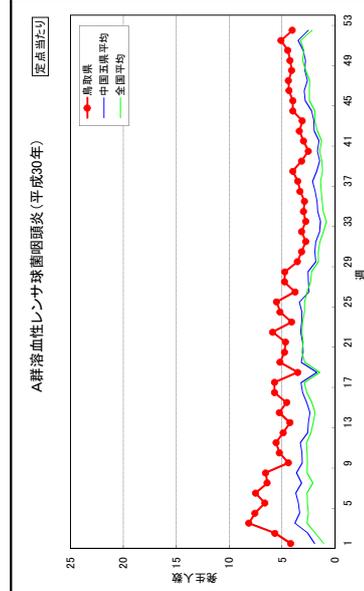
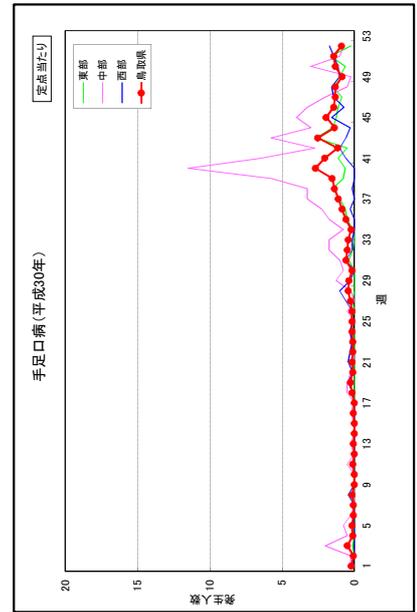
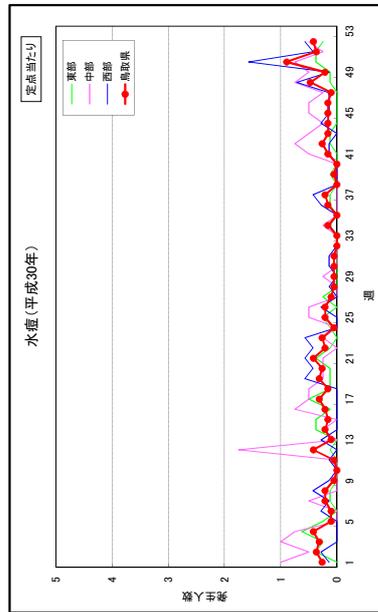
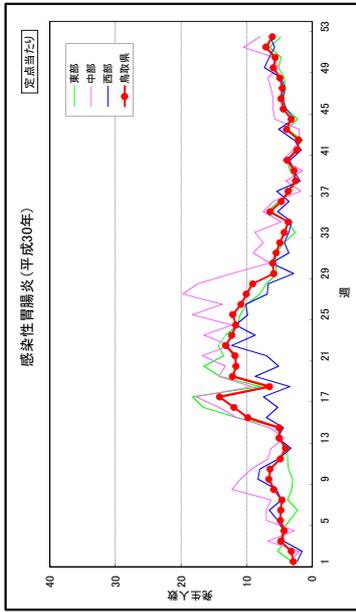
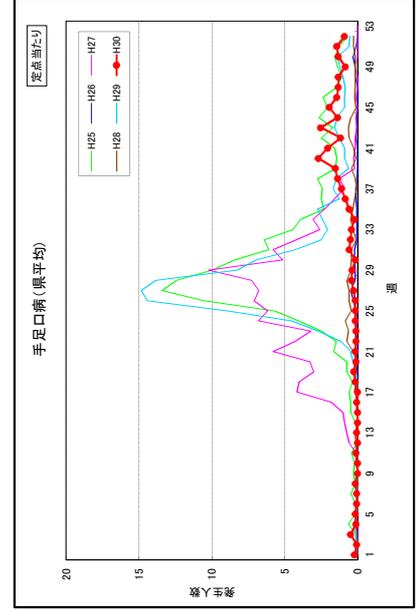
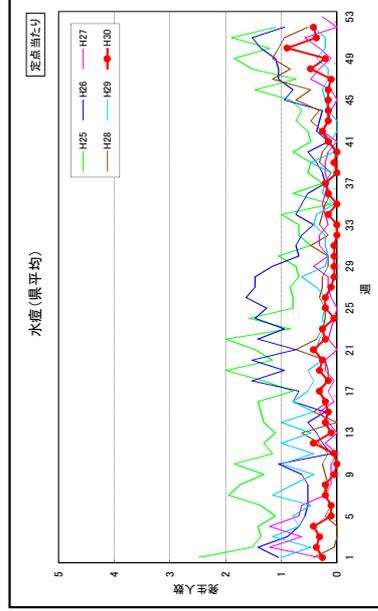
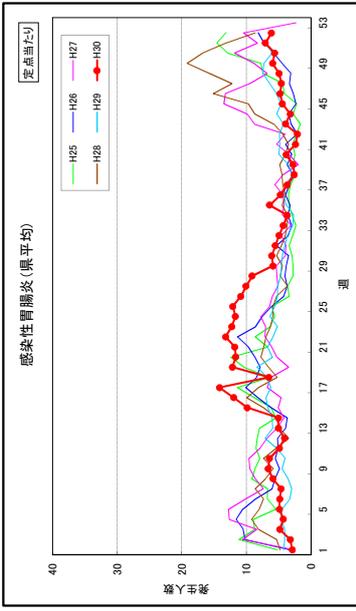


図1 平成30年感染症発生動向調査5類感染症定点把握患者発生状況(インフルエンザ・咽頭結核熱・A群溶血性連鎖球菌咽頭炎)

地区別発生状況



年次別発生状況



鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較

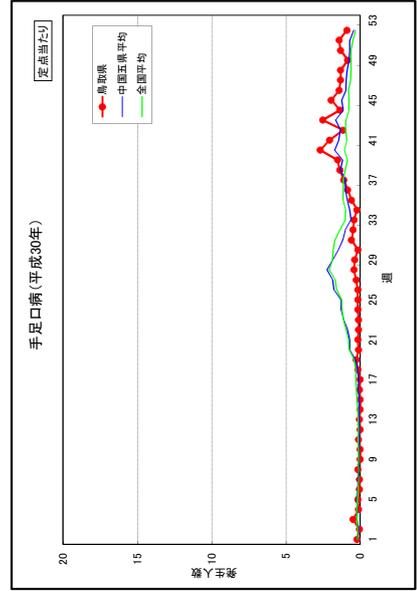
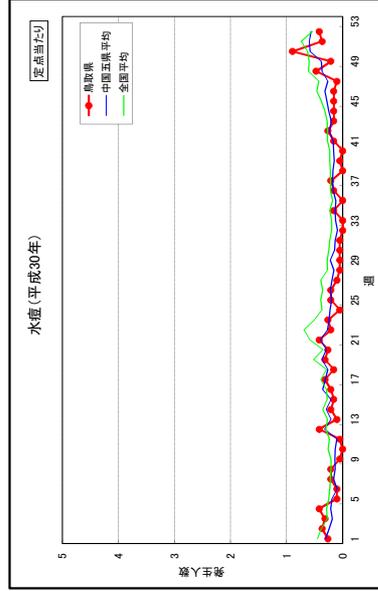
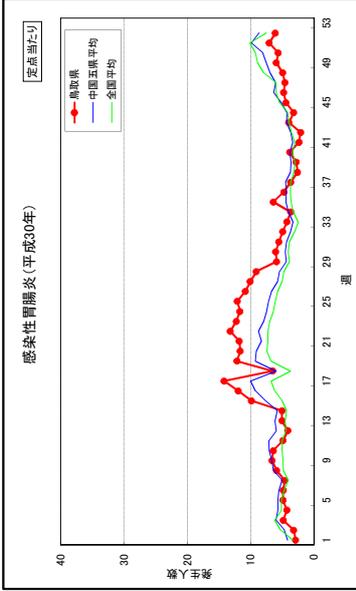
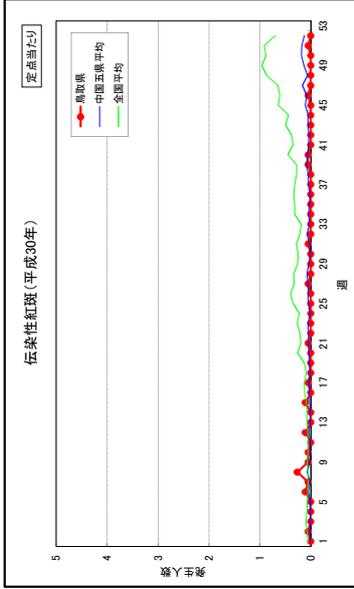
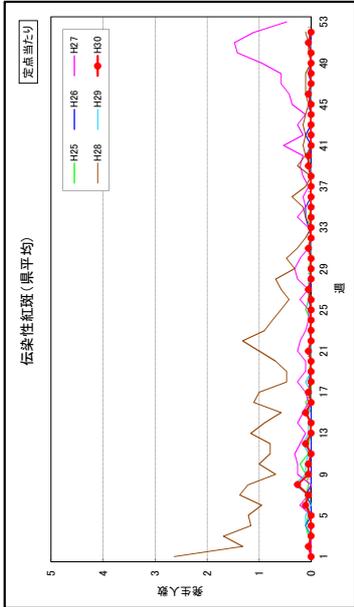
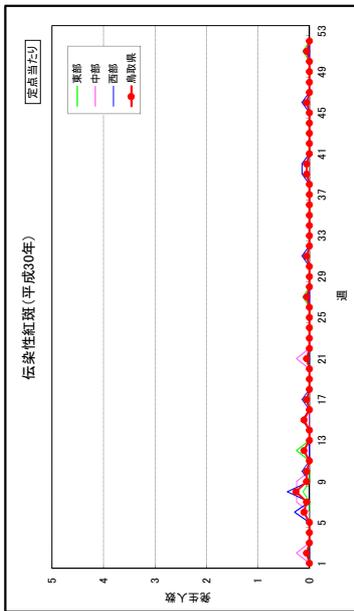
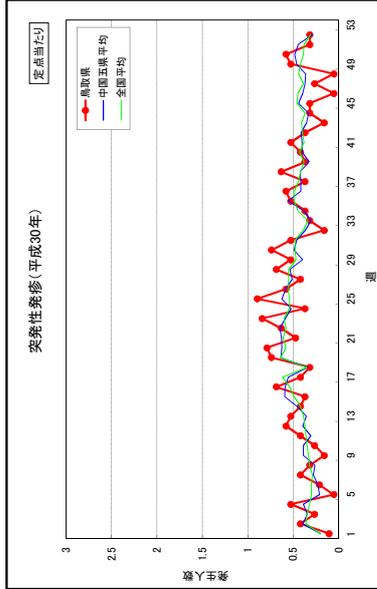
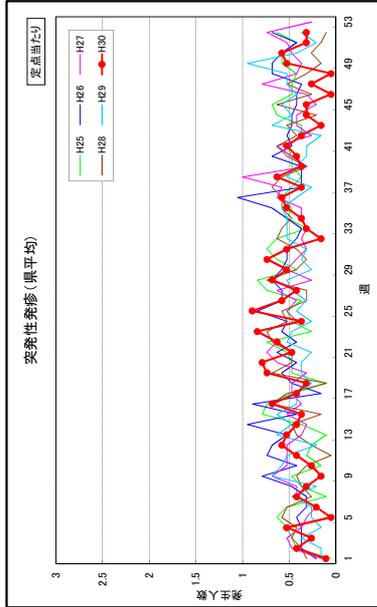
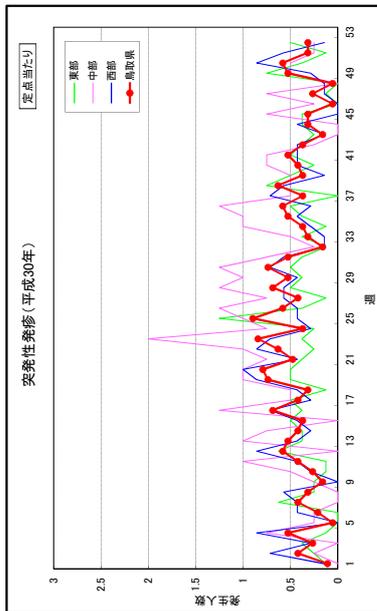


図1 平成30年感染症発生動向調査5類感染症定点把握患者発生状況(感染性胃腸炎・水痘・手足口病)

地区別発生状況



年次別発生状況



鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較

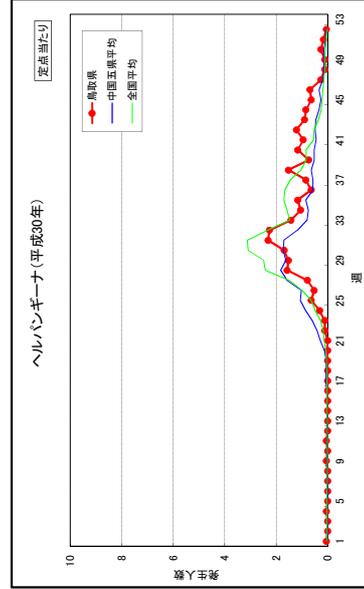
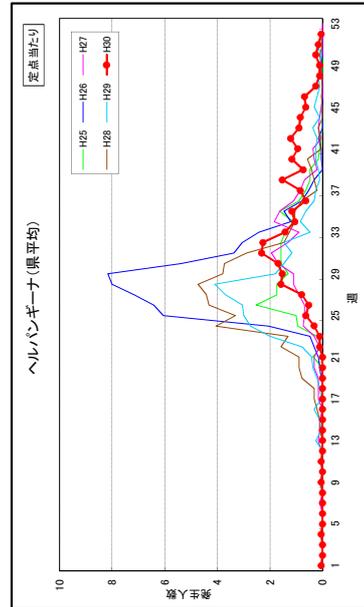
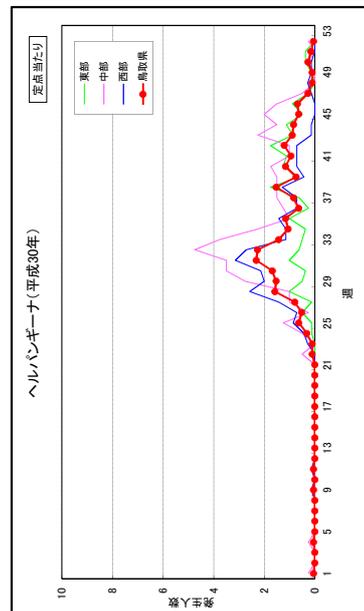
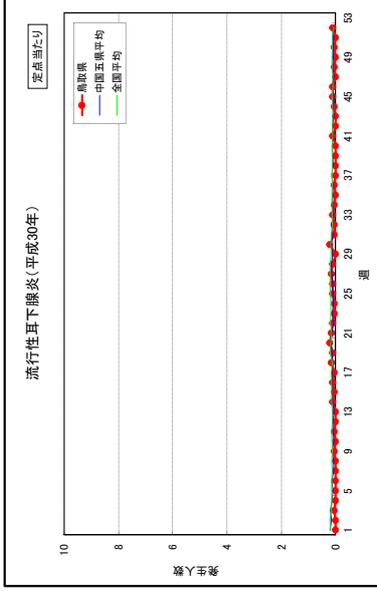
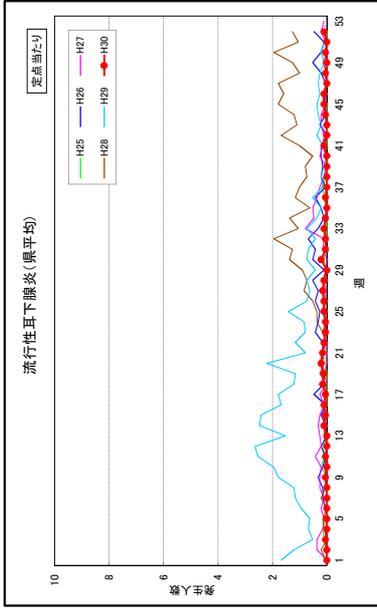
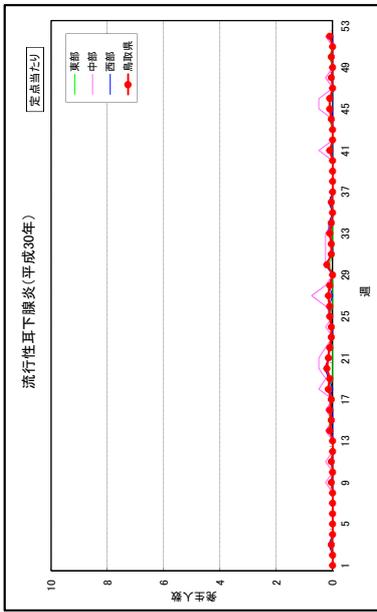
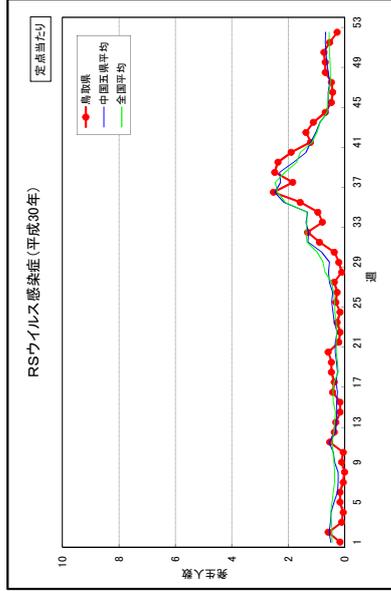
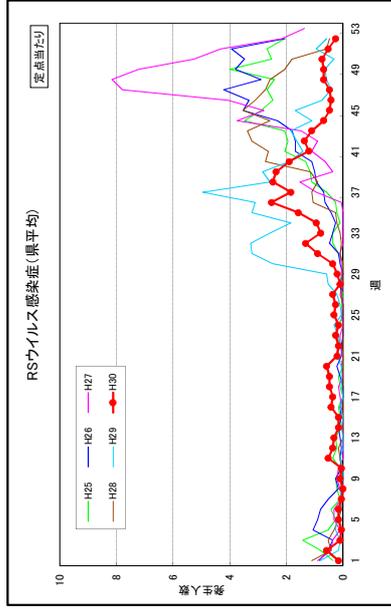
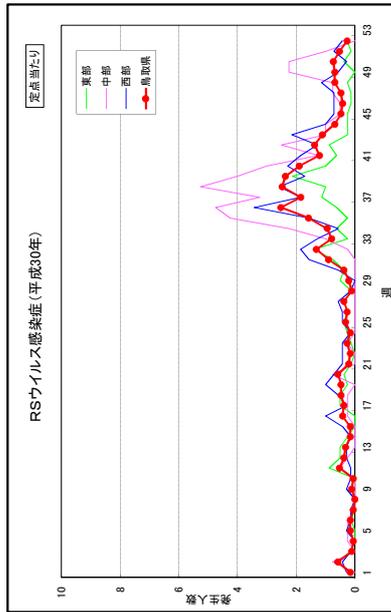


図1 平成30年感染症発生動向調査5類感染症定点把握患者発生状況(伝染性紅斑・突発性発疹・ヘルパンギーナ)

地区別発生状況



年次別発生状況



鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較

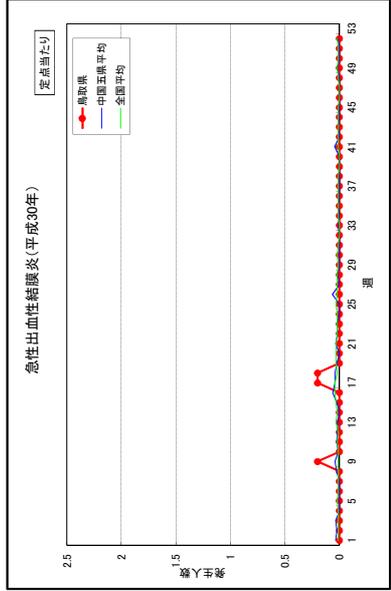
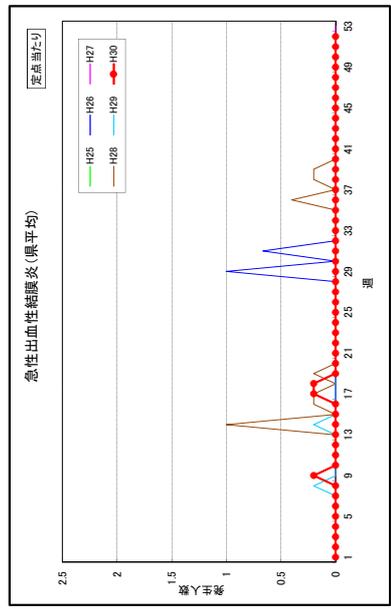
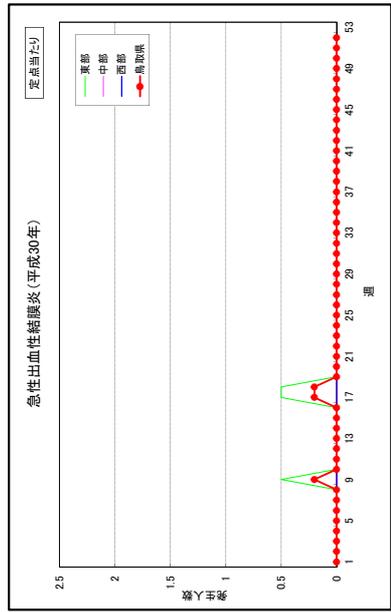
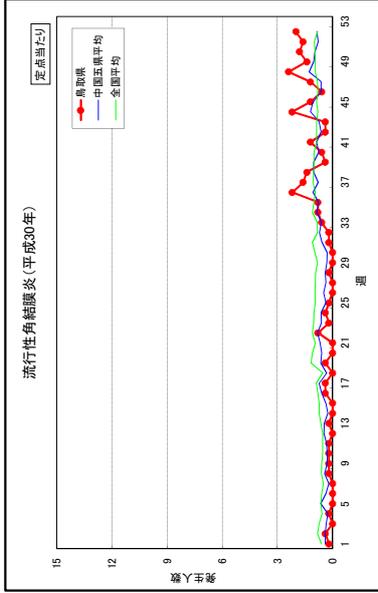
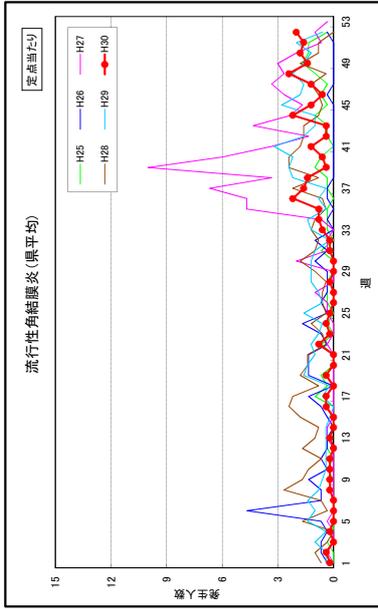
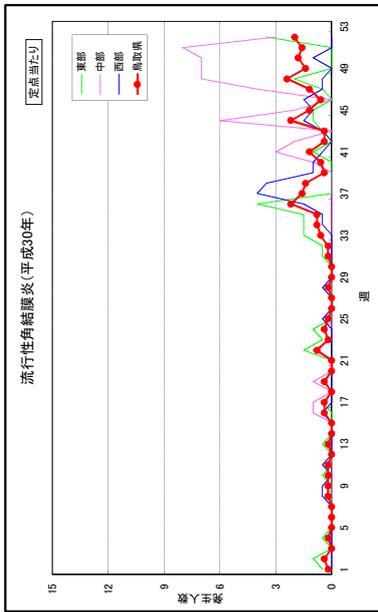
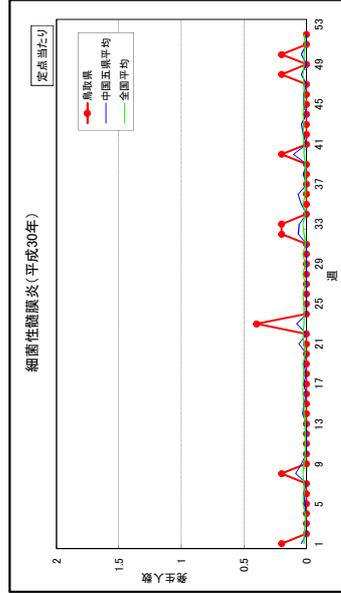
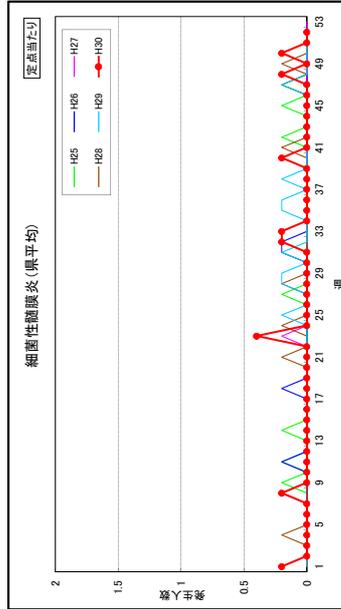
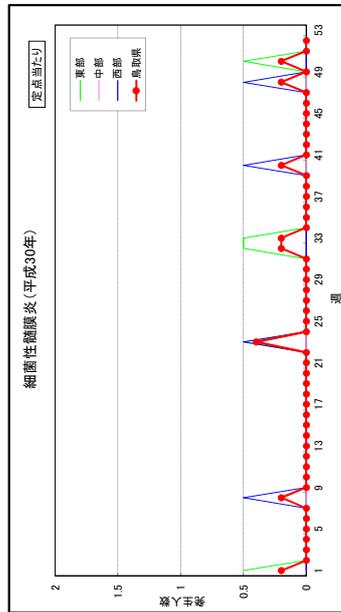


図1 平成30年感染症発生動向調査5類感染症定点把握患者発生状況(流行性耳下腺炎・RSウイルス感染症・急性出血性結膜炎)

地区別発生状況



年次別発生状況



鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較

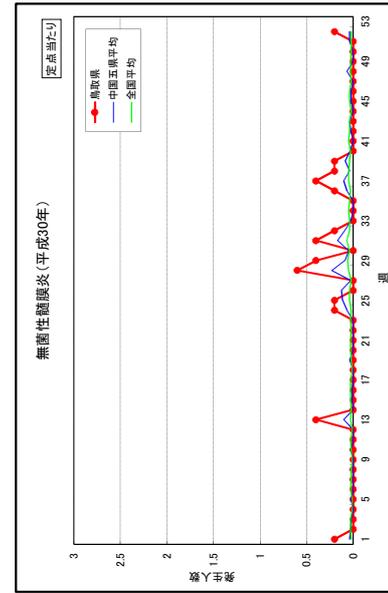
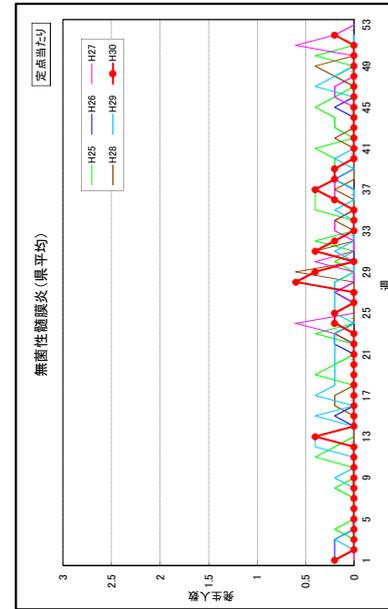
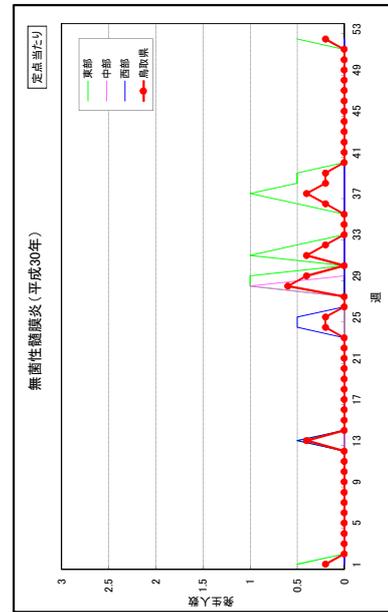
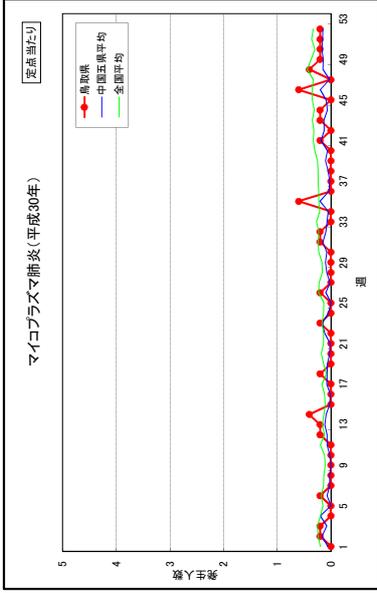
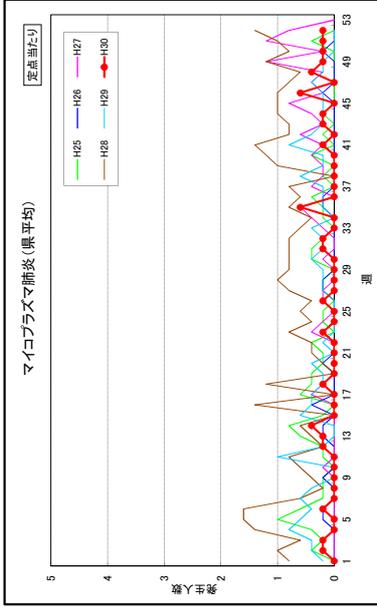


図1 平成30年感染症発生動向調査5類感染症定点把握患者発生状況(流行性角結膜炎・細菌性髄膜炎・無菌性髄膜炎)

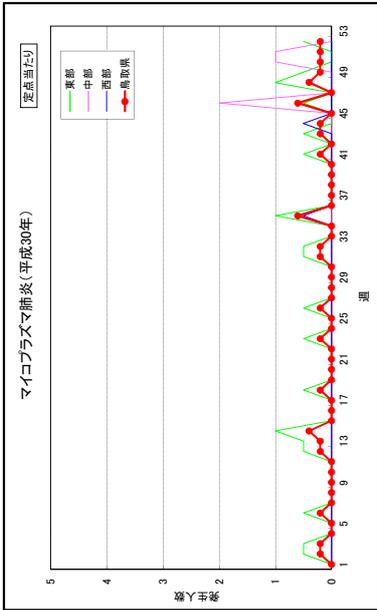
鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較



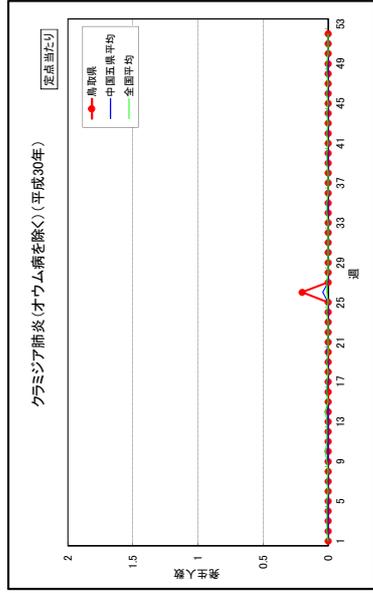
年次別発生状況



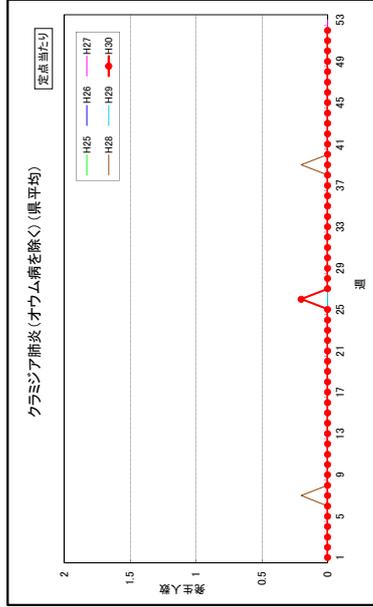
地区別発生状況



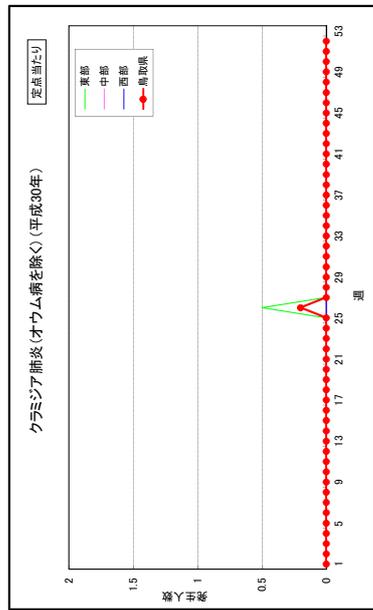
クラミジア肺炎(オウム病を除く)(平成30年)



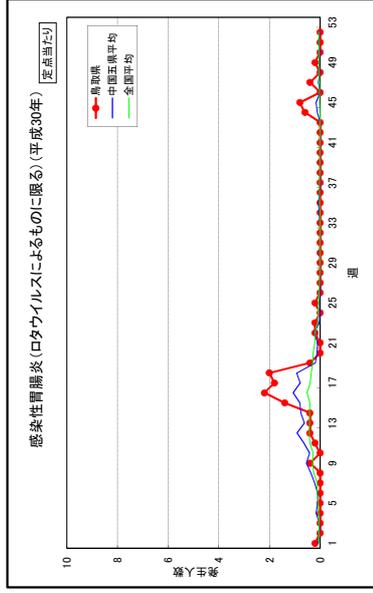
クラミジア肺炎(オウム病を除く)(県平均)



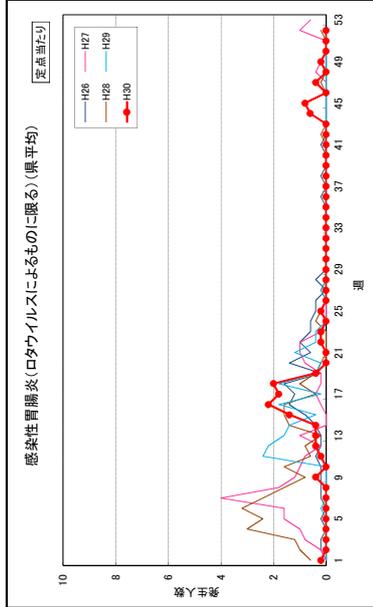
クラミジア肺炎(オウム病を除く)(平成30年)



感染性胃腸炎(ロタウイルスによるものに限る)(平成30年)



感染性胃腸炎(ロタウイルスによるものに限る)(県平均)



感染性胃腸炎(ロタウイルスによるものに限る)(平成30年)

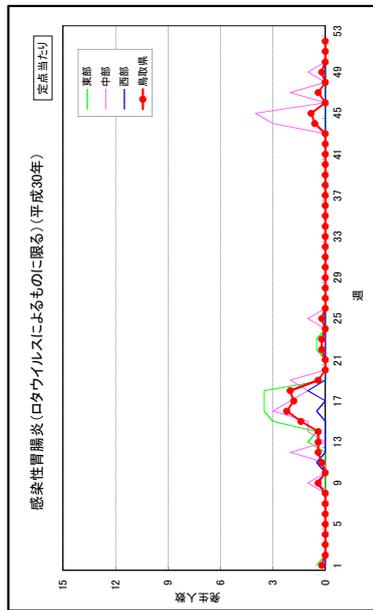


図1 平成30年感染症発生動向調査5類感染症定点把握患者発生状況(マイコプラズマ肺炎・クラミジア肺炎・感染性胃腸炎(ロタウイルスによるものに限る))

イ 性感染症(STD)定点報告疾病

性感染症(STD)定点報告対象疾病の4疾病(性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症)の全報告件数は492件と昨年より16件増加している。なお、性器クラミジア感染症は対前年12件の増加、性器ヘルペスウイルス感染症は対前年6件の増加、尖圭コンジローマは対前年8件の減少、淋菌感染症は対前年6件の増加であった(P13表5、P15図2-1参照)。

性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症の報告は、いずれも男性の割合が高く(各々68%、64%、65%、74%)、地域別では、東部地区で淋菌感染症の割合が高く(45%)、西部地区で性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症及び尖圭コンジローマの割合が高かった(各々63%、67%、76%)。

また年齢については、P13表6、P14表7、P15図2-2、P16図2-3、2-4参照。

表5 性感染症(STD)の年次別患者数(全県:平成25年1月～平成30年12月)

疾患名	月												合計	1定点当たり	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
平成25年	性器クラミジア感染症	24	26	16	22	20	33	25	35	23	27	11	21	283	40.4
	性器ヘルペスウイルス感染症	9	14	10	9	11	10	8	18	9	11	9	10	128	18.3
	尖圭コンジローマ	7	2	2	1	4	2	5	3	5	5	3	1	40	5.7
	淋菌感染症	15	4	6	5	12	5	11	11	9	8	7	5	98	14.0
平成26年	性器クラミジア感染症	24	18	18	16	31	16	31	28	37	25	20	16	280	40.0
	性器ヘルペスウイルス感染症	6	13	14	14	8	6	11	13	11	3	10	11	120	17.1
	尖圭コンジローマ	5	5	4	3	3	3	8	2	7	3	8	4	55	7.9
	淋菌感染症	9	8	12	7	16	7	16	12	16	11	9	5	128	18.3
平成27年	性器クラミジア感染症	15	27	18	14	18	25	32	19	26	27	27	18	266	38.0
	性器ヘルペスウイルス感染症	10	11	7	16	12	14	7	6	5	6	9	18	121	17.3
	尖圭コンジローマ	1	1	7	11	4	3	5	4	8	0	5	2	51	7.3
	淋菌感染症	6	8	11	4	9	16	4	5	12	7	10	11	103	14.7
平成28年	性器クラミジア感染症	23	21	21	23	33	27	19	30	21	16	28	23	285	40.7
	性器ヘルペスウイルス感染症	6	15	8	7	12	11	12	19	15	11	11	15	142	20.3
	尖圭コンジローマ	5	6	5	2	3	6	0	6	4	5	0	2	44	6.3
	淋菌感染症	7	6	8	5	14	5	5	14	9	4	7	2	86	12.3
平成29年	性器クラミジア感染症	24	18	17	18	12	23	13	17	33	32	14	15	236	33.7
	性器ヘルペスウイルス感染症	11	5	6	6	10	8	7	8	6	14	12	10	103	14.7
	尖圭コンジローマ	6	8	5	1	4	3	5	5	8	6	2	6	59	8.4
	淋菌感染症	4	3	2	4	8	11	4	8	11	8	8	7	78	11.1
平成30年	性器クラミジア感染症	25	13	24	18	20	22	21	20	24	20	28	13	248	35.4
	性器ヘルペスウイルス感染症	6	15	10	5	9	4	11	16	5	10	7	11	109	15.6
	尖圭コンジローマ	8	3	0	3	3	3	4	4	7	4	8	4	51	7.3
	淋菌感染症	13	5	13	6	8	10	5	13	4	3	4	0	84	12.0

表6 性感染症(STD)定点報告(平成25年1月～平成30年12月)

疾患名	性別			地区別			
	計	男	女	東部	中部	西部	
平成25年	性器クラミジア感染症	283	174	109	72	16	195
	性器ヘルペスウイルス感染症	128	80	48	36	5	87
	尖圭コンジローマ	40	28	12	7	3	30
	淋菌感染症	98	67	31	20	13	65
平成26年	性器クラミジア感染症	280	161	119	76	7	197
	性器ヘルペスウイルス感染症	120	71	49	43	9	68
	尖圭コンジローマ	55	40	15	4	9	42
	淋菌感染症	128	101	27	37	12	79
平成27年	性器クラミジア感染症	266	173	93	72	11	183
	性器ヘルペスウイルス感染症	121	67	54	27	12	82
	尖圭コンジローマ	51	31	20	9	3	39
	淋菌感染症	103	81	22	32	3	68
平成28年	性器クラミジア感染症	285	169	116	67	11	207
	性器ヘルペスウイルス感染症	142	83	59	32	14	96
	尖圭コンジローマ	44	28	16	10	6	28
	淋菌感染症	86	73	13	19	9	58
平成29年	性器クラミジア感染症	236	171	65	55	11	170
	性器ヘルペスウイルス感染症	103	70	33	22	6	75
	尖圭コンジローマ	59	33	26	10	5	44
	淋菌感染症	78	61	17	19	7	52
平成30年	性器クラミジア感染症	248	169	79	80	13	155
	性器ヘルペスウイルス感染症	109	70	39	32	4	73
	尖圭コンジローマ	51	33	18	8	4	39
	淋菌感染症	84	62	22	38	9	37

表7 性感染症(STD)定点報告(平成25年1月～平成30年12月)

疾患名		年 齢 区 分														
		1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～
平成25年	性器クラミジア感染症	0	0	1	44	72	37	43	26	16	17	11	9	3	3	1
	性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	5	11	7	13	15	17	23	9	6	8	4	10
	尖圭コンジローマ	0	0	0	2	5	6	5	5	4	4	3	1	2	1	2
	淋菌感染症	0	0	0	15	20	19	15	11	8	2	6	1	1	0	0
平成26年	性器クラミジア感染症	0	0	0	29	62	58	28	35	36	11	11	5	3	1	1
	性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	6	10	12	16	11	20	10	14	3	3	4	11
	尖圭コンジローマ	0	0	0	6	7	9	9	4	6	6	2	4	0	0	2
	淋菌感染症	0	0	0	6	30	23	14	12	18	10	6	7	1	1	0
平成27年	性器クラミジア感染症	0	0	0	29	61	49	38	32	24	16	6	5	3	3	0
	性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	4	6	7	17	11	26	11	10	6	8	6	9
	尖圭コンジローマ	0	0	0	1	10	7	10	8	6	3	1	4	1	0	0
	淋菌感染症	0	0	0	6	18	17	16	12	17	7	7	2	0	1	0
平成28年	性器クラミジア感染症	0	0	0	18	59	54	41	36	37	19	9	7	5	0	0
	性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	11	9	16	11	14	18	16	10	11	9	8	9
	尖圭コンジローマ	0	0	0	2	6	9	4	5	4	8	2	2	1	1	0
	淋菌感染症	0	0	0	5	17	14	17	22	2	2	2	3	1	0	1
平成29年	性器クラミジア感染症	0	0	0	17	49	48	38	26	25	12	7	10	2	2	0
	性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	1	1	11	12	12	12	17	10	7	8	5	4	3
	尖圭コンジローマ	0	0	0	0	8	13	6	6	7	10	4	2	0	2	1
	淋菌感染症	0	0	0	4	14	15	12	13	5	6	5	3	1	0	0
平成30年	性器クラミジア感染症	0	0	0	20	47	45	47	32	29	17	2	6	2	0	1
	性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	3	8	16	18	19	11	13	5	5	5	2	4
	尖圭コンジローマ	0	0	1	3	10	9	7	5	7	2	5	1	1	0	0
	淋菌感染症	0	0	0	6	13	19	10	16	7	5	3	1	2	0	2

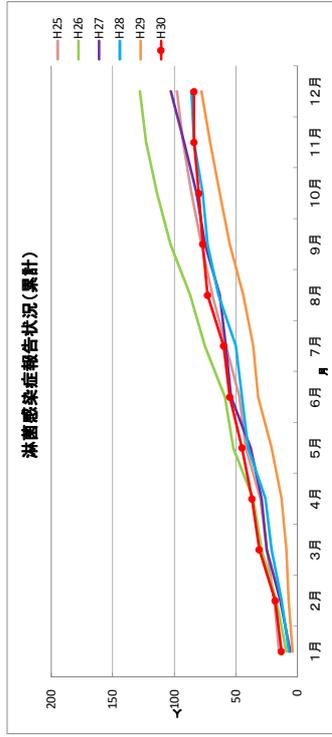
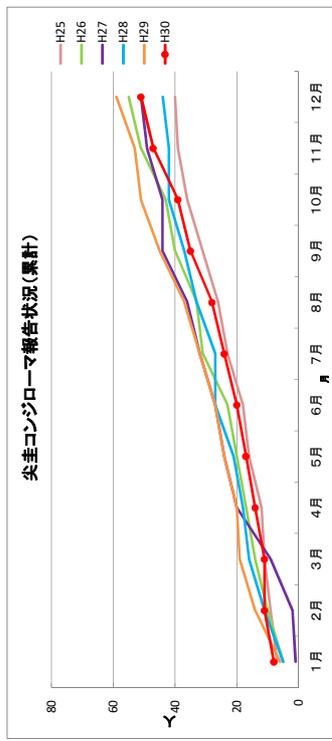
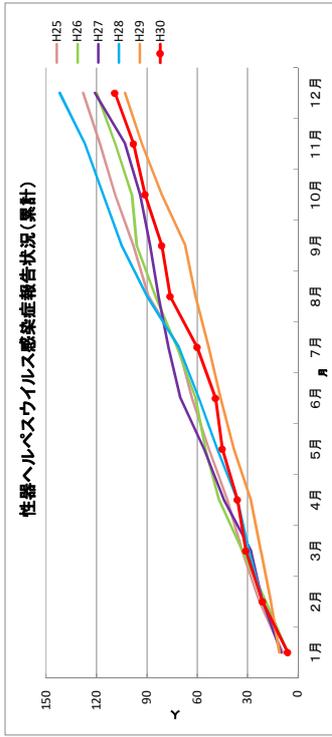
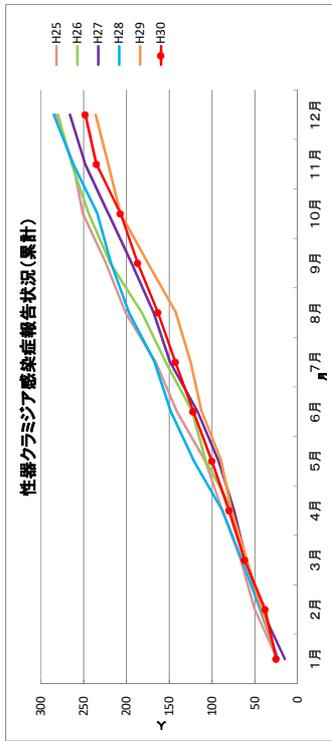


図2-1 感染症発動向調査<性感染症患者発生状況(累計)>

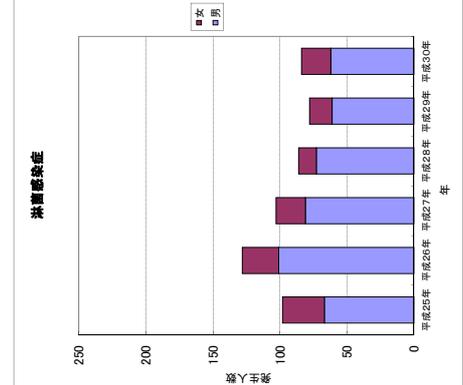
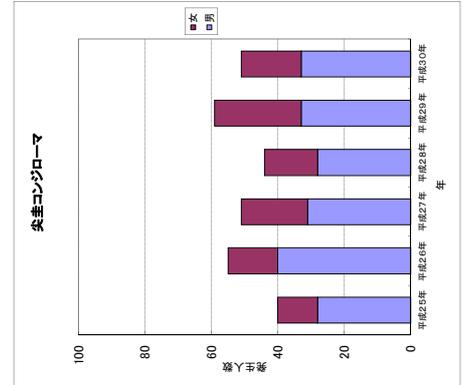
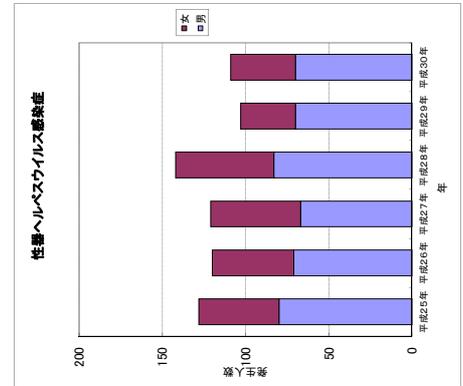
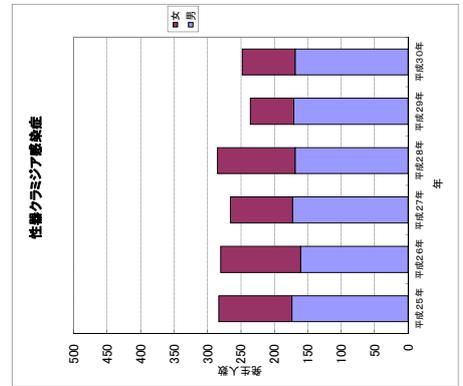


図2-2 感染症発動向調査<性感染症患者発生状況(男女別)>

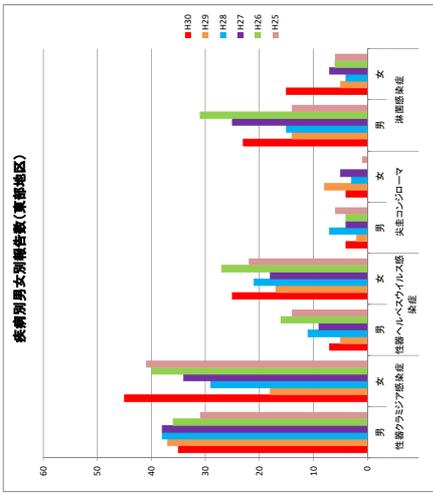
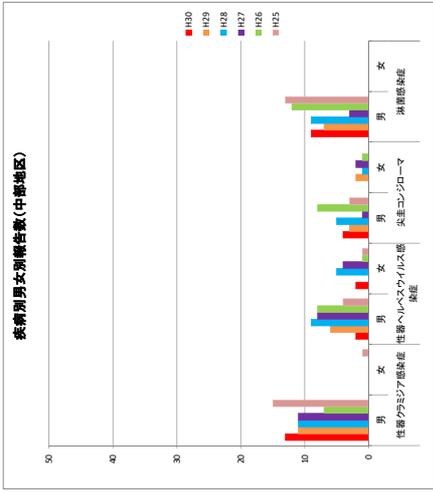
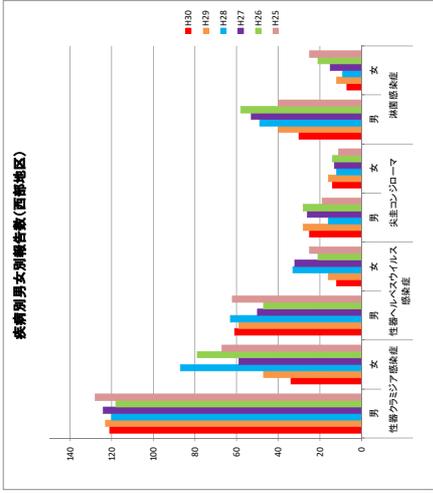


図2-3 感染症発生動向調査＜性感染症患者発生状況(地区別)＞

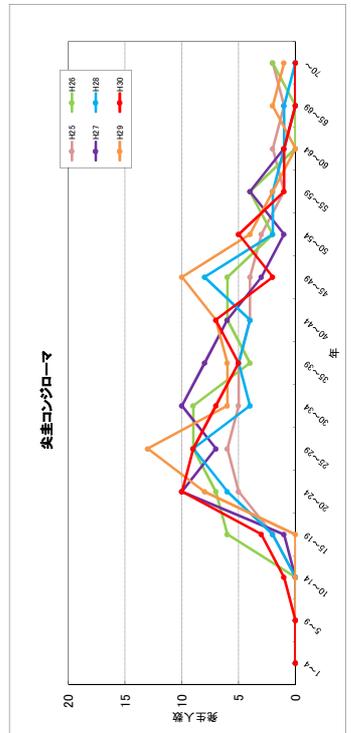
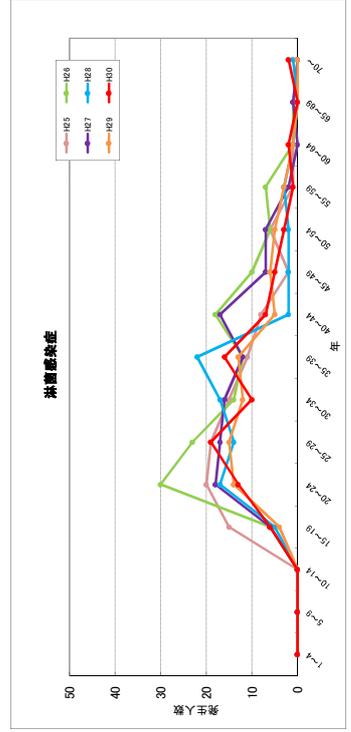
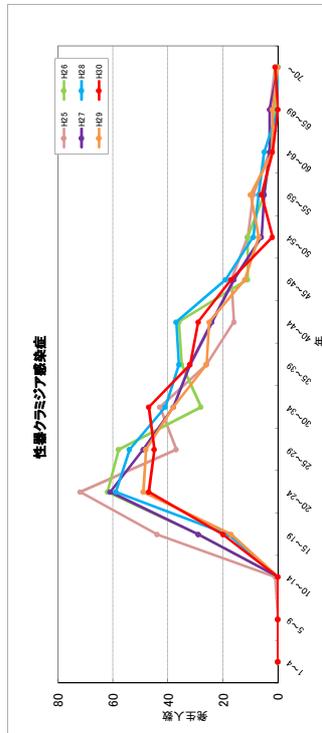
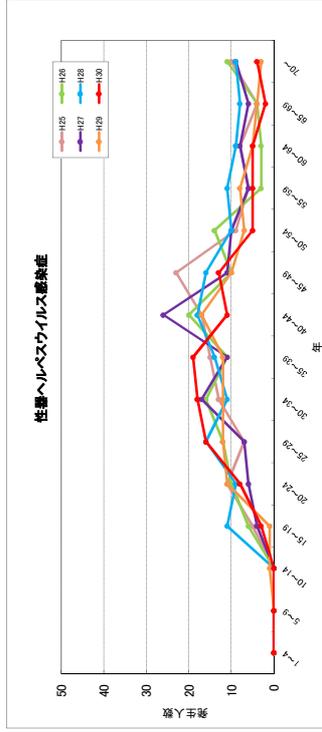


図2-4 感染症発生動向調査＜性感染症患者発生状況(年代別)＞

ウ 基幹定点報告疾病

基幹定点報告対象の3疾病(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症)の全報告数は179件と昨年より4件増加している。なお、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症は対前年7件の増加、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症は対前年2件の減少であり、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はなかった(P18表8、P20図3-1参照)。

性別・地区別についてはP18表9のとおりであり、報告年齢はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症は70歳以上(64.6%)が多く、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症は60歳以上(66.7%)が多かった(P19表10、P21図3-3参照)。

エ 定点把握対象感染症の追加・変更・削除の経緯について

平成30年1月から百日咳を定点報告から全数報告に変更。

表8 基幹病院定点報告(月報)(全県:平成25年1月～平成30年12月)

疾患名	月												合計	1定点当たり	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
平成25年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	32	20	22	9	17	15	16	22	15	25	21	19	233	46.6
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2	3	4	5	7	4	2	5	4	0	2	5	43	8.6
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	1	1	0	1	1	0	1	0	1	6	1.2
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平成26年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14	15	14	16	13	12	17	10	12	15	15	12	165	33.0
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	2	2	2	3	3	4	3	4	0	2	3	29	5.8
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0.2
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平成27年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	21	11	13	12	12	16	5	13	14	10	10	10	147	29.4
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3	1	1	1	3	1	0	0	4	0	4	1	19	3.8
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平成28年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11	15	16	9	14	7	10	15	10	7	20	15	149	29.8
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4	1	5	0	5	1	0	0	1	0	2	2	21	4.2
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2
平成29年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	15	13	11	11	16	15	8	14	12	19	10	10	154	30.8
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0	4	1	2	2	2	0	5	1	0	2	20	4.0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.2
平成30年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	15	10	21	18	20	7	9	15	13	7	14	12	161	32.2
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4	1	1	1	3	2	2	1	1	1	1	0	18	3.6
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0

表9 基幹病院定点報告(平成25年1月～平成30年12月)

疾患名	性別			地区別			
	計	男	女	東部	中部	西部	
平成25年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	233	147	86	57	37	139
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	43	31	12	1	0	42
	薬剤耐性緑膿菌感染症	6	3	3	0	0	6
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0
平成26年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	165	99	66	47	23	95
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	29	13	16	0	0	29
	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	1	0	1	0	0
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0
平成27年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	147	104	43	50	23	74
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	19	10	9	1	0	18
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0
平成28年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	149	88	61	44	23	82
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	21	15	6	0	0	21
	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0	1	0	0	1
平成29年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	154	96	58	69	17	68
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	20	16	4	0	1	19
	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	1	0	0	0	1
平成30年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	161	96	65	69	27	65
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	18	14	4	0	0	18
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0

表10 基幹病院定点報告(平成25年1月～平成30年12月)

疾患名		年齢区分														
		0～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～
平成25年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11	9	0	3	0	4	4	0	3	3	2	7	22	22	143
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	18	0	2	0	0	1	2	1	0	0	1	2	0	4	12
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成26年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6	1	0	3	1	2	2	1	2	3	4	11	8	19	102
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	15	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	1	9
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成27年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10	3	0	1	1	1	1	1	4	3	1	7	6	20	88
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	9	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	7
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成28年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6	3	2	1	0	0	3	3	5	4	5	5	5	15	92
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	6	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	6
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
平成29年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14	1	2	2	0	2	1	1	1	4	4	5	10	19	88
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	3	11
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
平成30年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3	1	0	1	1	3	0	5	2	4	9	4	13	11	104
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2	0	0	0	0	0	2	1	0	0	1	0	1	5	6
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

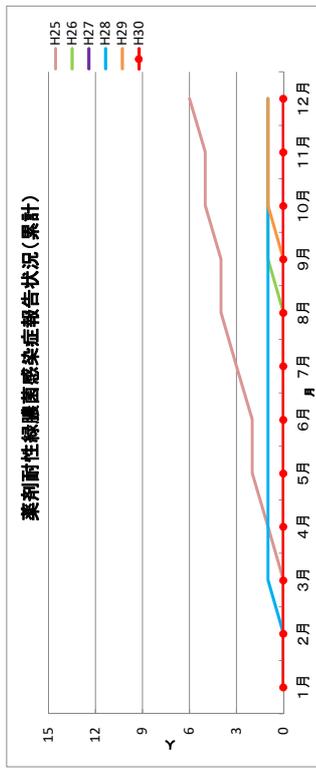
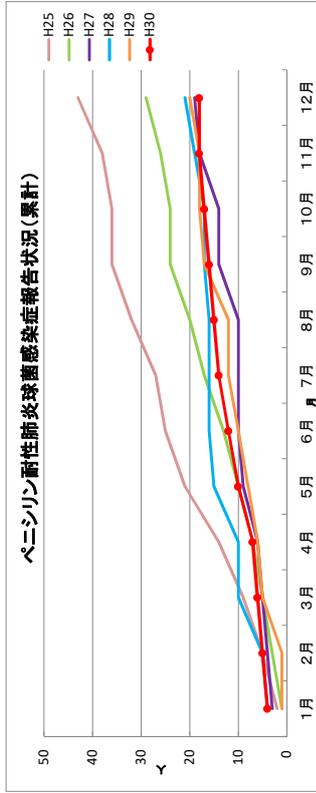
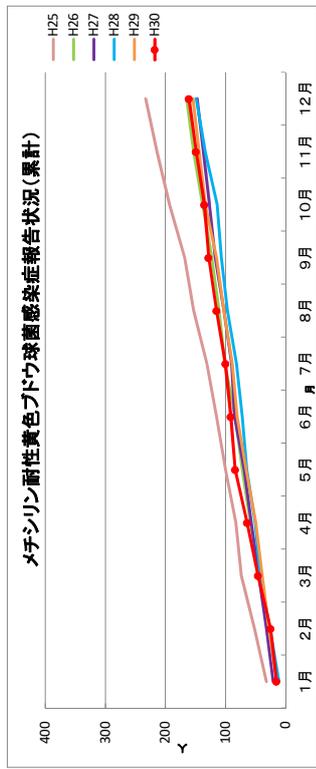


図3-1 感染症発生動向調査<基幹定点報告発生状況(累計)>

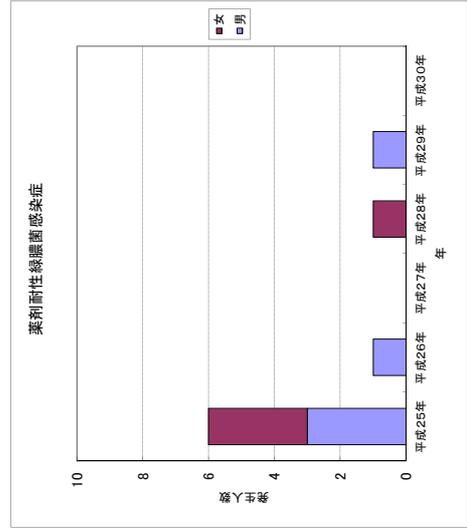
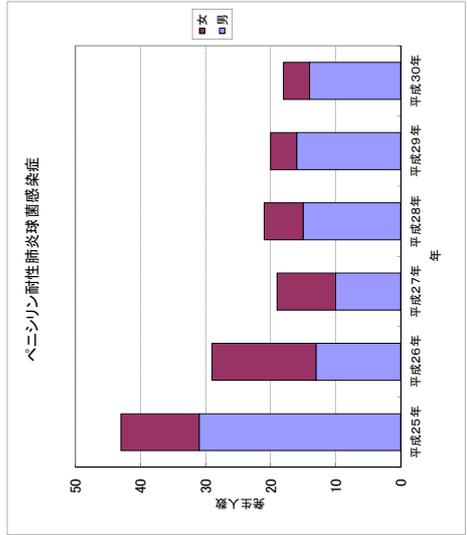
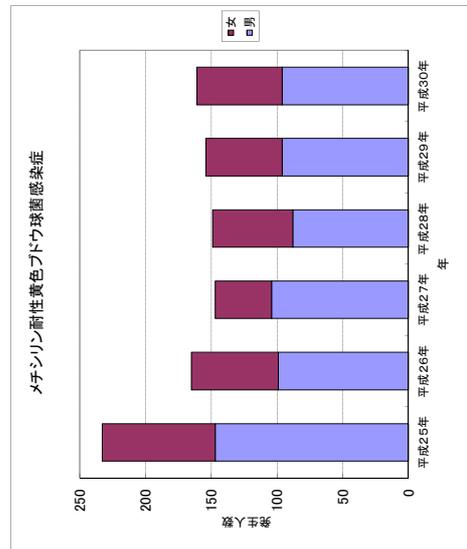


図3-2 感染症発生動向調査<基幹定点報告発生状況(男女別)>

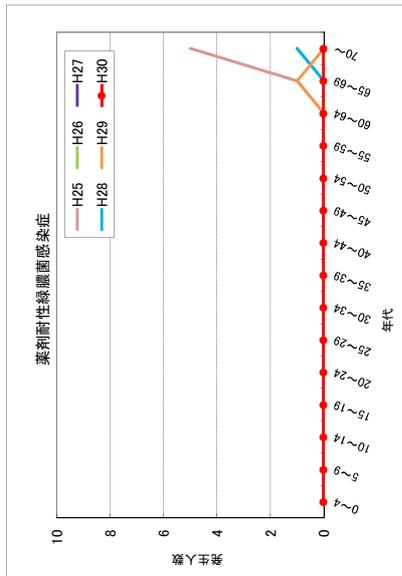
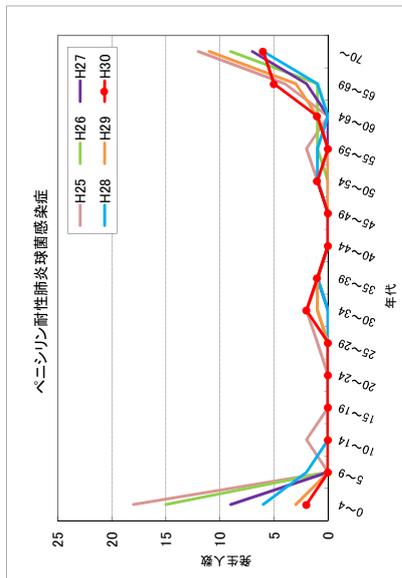
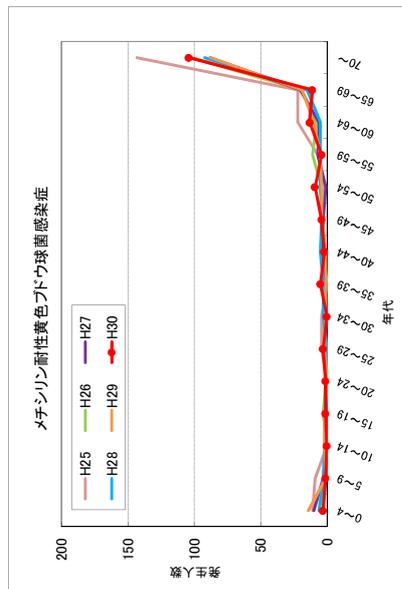


図3-3 感染症発生動向調査<基幹定点報告発生状況(年代別)>

(2) 冬型感染症のシーズン別報告状況

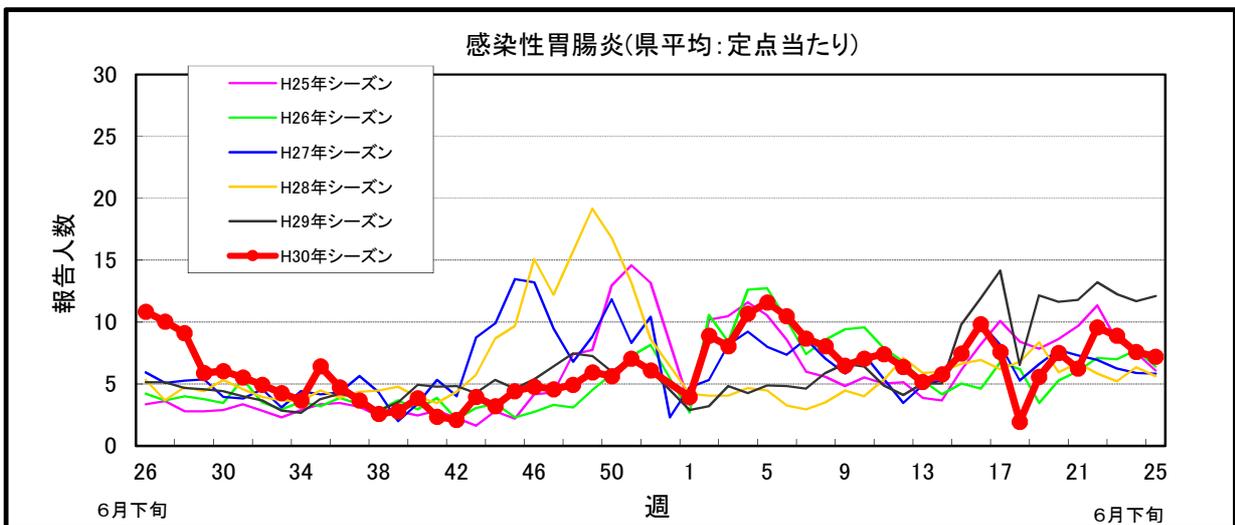
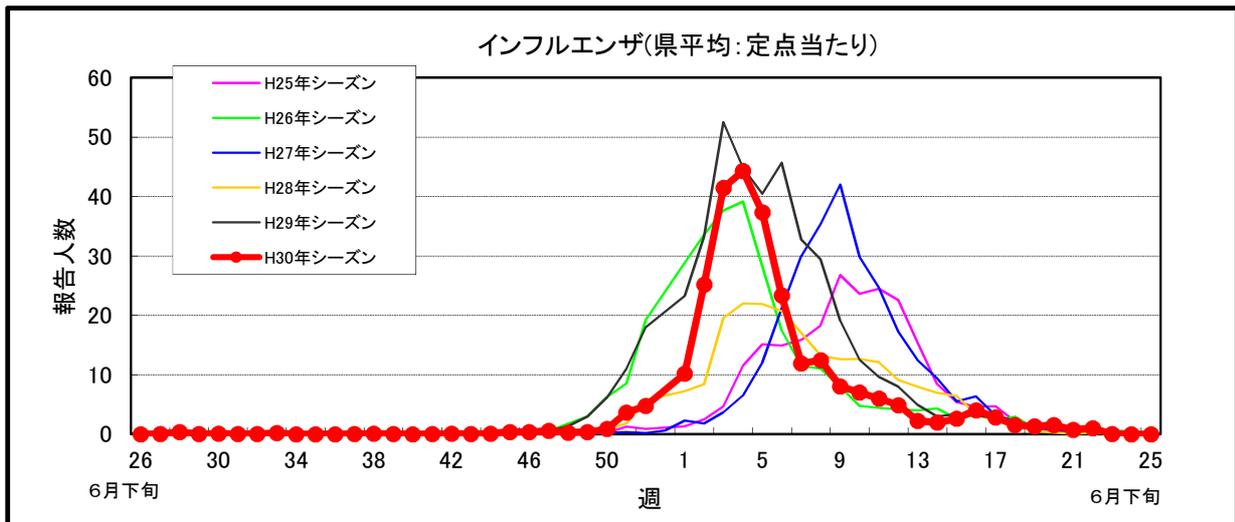
平成30年シーズン（平成30年6月下旬～令和元年6月下旬）の特徴。

インフルエンザは、昨年より遅く12月中旬から患者報告数が増加し、1月下旬に流行のピークとなった。感染性胃腸炎は、12月までは少ない報告数であったが、1月以降は例年並みに増加し、1月下旬に流行のピークとなった。その後、減少したが再び増加し、4月下旬と5月下旬にピークとなった。（水痘は、患者が年間を通して報告されたので、今年除外した。）

	東部	中部	西部	県計
平成25年シーズン	2,509	1,631	2,471	6,611
平成26年シーズン	2,992	2,560	2,956	8,508
平成27年シーズン	3,472	1,635	2,743	7,850
平成28年シーズン	2,376	1,735	2,165	6,276
平成29年シーズン	4,085	3,500	4,508	12,093
平成30年シーズン	2,523	2,038	3,106	7,667
6年シーズン平均	2,993	2,183	2,992	8,168

	東部	中部	西部	県計
平成25年シーズン	2,817	1,640	1,388	5,845
平成26年シーズン	2,478	1,808	1,153	5,439
平成27年シーズン	3,253	1,652	1,672	6,577
平成28年シーズン	2,892	1,678	1,750	6,320
平成29年シーズン	2,725	1,677	1,771	6,173
平成30年シーズン	2,482	1,769	1,974	6,225
6年シーズン平均	2,775	1,704	1,618	6,097

※当年6月下旬～翌年6月下旬



2 全数把握对象感染症

(1)平成30年の発生状況(P25～26 表 11 参照)

ア 1 類感染症

全国、鳥取県とも発生はなかった。

イ 2 類感染症

全国では、結核 22,467 件であった。
鳥取県では、結核 66 件の報告があった。

ウ 3 類感染症

全国では、腸管出血性大腸菌感染症 3,851 件、細菌性赤痢 268 件、腸チフス 35 件、パラチフス 23 件、コレラ 4 件であった。
鳥取県では、腸管出血性大腸菌感染症 22 件の報告があった。

エ 4 類感染症

全国では、レジオネラ症 2,141 件、A 型肝炎 926 件、つつが虫病 455 件、E 型肝炎 446 件、日本紅斑熱 305 件、デング熱 201 件、重症熱性血小板減少症候群 77 件、マラリア 50 件、レプトスピラ症 32 件等であった。
鳥取県では、レジオネラ症 18 件、つつが虫病 5 件、A 型肝炎 3 件、E 型肝炎 2 件、デング熱 1 件、日本紅斑熱 1 件、レプトスピラ症 1 件の報告があった。

オ 5 類感染症

全国では、百日咳 12,104 件、梅毒 7,001 件、侵襲性肺炎球菌感染症 3,328 件、風しん 2,937 件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2,289 件、後天性免疫不全症候群 1,302 件、アメーバ赤痢 842 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 693 件、急性脳炎（ウエストナイル脳炎・日本脳炎等を除く）678 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 488 件、水痘（入院例に限る。）466 件、麻しん 279 件、ウイルス性肝炎 277 件、クロイツフェルト・ヤコブ病 220 件、播種性クリプトコックス症 181 件、破傷風 133 件等であった。

鳥取県では、百日咳 61 件、梅毒 28 件、侵襲性肺炎球菌感染症 13 件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 8 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 7 件、アメーバ赤痢 6 件、急性脳炎（ウエストナイル脳炎・日本脳炎等を除く）5 件、破傷風 5 件、クロイツフェルト・ヤコブ病 3 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 3 件、播種性クリプトコックス症 3 件、後天性免疫不全症候群 2 件、水痘（入院例に限る。）2 件、風しん 2 件の報告があった。

カ 全数把握対象感染症の追加・変更・削除の経緯について

(ア)平成 30 年 1 月から百日咳を定点報告から全数報告に変更。

(イ)平成 30 年 5 月から急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）を 5 類感染症に追加。

表11 全数把握疾患(月別)

	平成25年		平成26年		平成27年		平成28年		平成29年		平成30年														
	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
1類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	痘そう(天然痘)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	南米出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ペスト	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2類感染症	急性灰白髄炎	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	結核	27,086	99	26,629	111	24,523	110	24,669	88	23,447	88	22,467	66	8	4	7	6	8	4	7	3	5	7	3	4
	ジフテリア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナ ウイルスであるものに限る)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナ ウイルスであるものに限る)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥インフルエンザ(H7N9)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
3類感染症	コレラ	4	-	5	-	7	-	9	-	7	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	細菌性赤痢	143	-	158	-	156	-	121	-	141	2	268	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	腸管出血性大腸菌感染症	4,044	26	4,151	15	3,573	60	3,647	17	3,904	21	3,851	22	-	-	-	-	3	1	4	9	4	1	-	
	腸チフス	65	-	53	-	37	-	52	-	37	-	35	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	パラチフス	50	-	16	-	32	-	20	-	14	-	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4類感染症	E型肝炎	127	-	154	-	212	1	356	5	305	2	446	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ウエストナイル熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	A型肝炎	128	-	433	-	243	2	272	1	285	3	926	3	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	
	エキノコックス症	20	-	28	-	25	-	27	-	26	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	黄熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	オウム病	8	-	8	-	5	-	6	-	14	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	オムスク出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	回帰熱	1	-	1	-	4	-	7	-	8	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	キャサナル森林病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	Q熱	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	コクシオイデス症	4	-	2	-	3	-	3	-	4	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	サル痘	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ジカウイルス感染症	/	/	/	/	/	/	12	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	重症熱性血小板減少症候群 (病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであ るものに限る)	48	-	61	-	60	-	60	-	90	-	77	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	チクングニア熱	14	-	16	-	17	-	14	-	5	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
つつが虫病	344	-	320	1	422	3	505	4	448	11	455	5	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	3		
デング熱	249	-	341	-	293	1	342	-	245	-	201	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
東部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鳥インフルエンザ(鳥インフルエンザ (H5N1)を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ニバウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
日本紅斑熱	175	2	241	2	215	10	277	10	337	5	305	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		

表11 全数把握疾患(月別)

	平成25年		平成26年		平成27年		平成28年		平成29年		平成30年													
	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
日本脳炎	9	—	2	—	2	—	11	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ハンタウイルス肺症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Bウイルス病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鼻疽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブルセラ症	2	—	10	—	5	—	2	—	2	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ベネズエラウマ脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘンドラウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
発疹チフス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ポツリヌス症	—	—	1	—	1	—	5	—	4	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マラリア	48	—	60	1	40	—	54	—	61	1	50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
野兎病	—	—	1	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ライム病	20	—	17	—	9	—	8	—	19	—	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リッサウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リフトバレー熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
類鼻疽	4	—	—	—	1	—	—	—	1	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
レジオネラ症	1,124	7	1,248	5	1,592	8	1,602	4	1,731	7	2,141	18	—	—	1	—	5	3	1	1	1	4	—	2
レプトスピラ症	29	—	48	—	33	—	76	—	47	—	32	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
ロッキー山紅斑熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
アメーバ赤痢	1,047	3	1,134	1	1,109	2	1,151	3	1,089	5	842	6	1	—	—	—	1	—	2	—	1	—	1	—
ウイルス性肝炎(E・A型肝炎を除く)	288	—	226	—	255	1	280	—	295	2	277	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	/	/	314	—	1,671	4	1,573	2	1,660	6	2,289	8	1	—	1	—	—	2	1	1	—	1	1	—
急性弛緩性麻痺	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	141	—	/	/	/	/	—	—	—	—	—	—	—	—
急性脳炎(ウエストナイル脳炎・日本脳炎等を除く)	364	—	459	1	511	—	763	—	701	3	678	5	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	3	—
クリプトスポリジウム症	19	—	98	1	15	—	14	—	19	—	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クロイツフェルト・ヤコブ病	207	2	177	3	192	1	175	1	200	2	220	3	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	1
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	210	1	268	1	415	4	494	2	588	10	693	7	1	—	—	—	1	—	—	1	2	1	1	—
後天性免疫不全症候群	1,584	3	1,538	3	1,431	3	1,443	3	1,391	3	1,302	2	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—
ジアルジア症	82	1	68	—	81	2	71	1	60	—	68	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
侵襲性インフルエンザ菌感染症	108	—	200	1	252	—	312	1	372	2	488	3	—	1	—	—	1	—	—	—	—	1	—	—
侵襲性髄膜炎菌感染症	23	—	37	—	34	—	43	—	25	—	37	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
侵襲性肺炎球菌感染症	1,000	6	1,825	11	2,403	12	2,735	10	3,204	27	3,328	13	2	3	1	1	2	1	—	—	—	1	1	1
水痘(入院例に限る。)	/	/	143	1	313	—	318	2	313	2	466	2	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	—
先天性風しん症候群	32	—	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
梅毒	1,236	—	1,661	2	2,690	3	4,575	8	5,820	10	7,001	28	3	2	3	2	3	1	4	2	3	2	2	1
播種性クリプトコックス症	/	/	37	1	120	3	137	1	136	1	181	3	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	—	1
破傷風	128	—	126	1	120	2	129	1	125	—	133	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	3
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
バイコマイシン耐性腸球菌感染症	55	—	56	—	66	—	61	—	83	—	80	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	12,104	61	10	1	1	3	10	23	4	1	3	3	2	—
風しん	14,362	32	319	—	163	1	126	—	91	1	2,937	2	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—
麻しん	230	—	462	—	35	—	165	—	187	—	279	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
薬剤耐性アシネトバクター感染症	/	/	15	—	38	—	33	—	28	2	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
髄膜炎菌性髄膜炎	2	—	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
新型インフルエンザ等感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

3 病原体検査状況

(1) 病原体検査の概要

ア 疾患別、月別検査受入状況 (P30 表 12 参照)

受入検体件数 375 件 (全数把握対象感染症 112 件、病原体定点対象感染症 263 件) で、多い順に感染性胃腸炎 101 件、腸管出血性大腸菌感染症 73 件、インフルエンザ 57 件、流行性角結膜炎 26 件、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び無菌性髄膜炎各 14 件等である。全数把握対象感染症については、5 月から 10 月にかけて腸管出血性大腸菌感染症の検体が多く、4 月から 10 月にかけて日本紅斑熱、麻疹及び風しんの検体の搬入が相次いだ。定点把握感染症については、年間を通じて感染性胃腸炎及び流行性角結膜炎の検体が多く、冬期と春期を中心にインフルエンザの検体が搬入された。

イ 疾患別病原体分離・検出状況 (参照; P33 表 13-a、P34 表 13-b)

16 疾患を中心に 13 種類 31 型 (血清型、遺伝子型、遺伝子型および遺伝子群を含む) のウイルス・リケッチア・細菌が分離・検出された。主な疾患から分離・検出されたものは、以下のとおりである。

- (ア) 腸管出血性大腸菌感染症; O157 が 1 件、O103 が 2 件分離同定された。また、血清型が不明な菌株 1 件について検査を実施したところ、O145 であった。
- (イ) 日本紅斑熱; 日本紅斑熱リケッチアが 2 件検出された。陽性判定は、すべて遺伝子検査によった。
- (ウ) 急性脳炎; コクサッキーウイルス A4 型が 1 件検出された。
- (エ) 侵襲性肺炎球菌感染症; 肺炎球菌 2 株について、血清型の試験を行った。
- (オ) 風しん; 風しんウイルスが 1 件検出された。
- (カ) 咽頭結膜熱; アデノウイルス 9 件が分離・検出された。そのうち、2 型が 4 件、1 型が 3 件、型別不能 2 件であった。
- (キ) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎; A 群溶血性レンサ球菌が 3 件分離された。血清型は T1 型が 1 件で、残り 2 件は型別不能であった。
- (ク) 感染性胃腸炎 (P31 図 4 参照); ノロウイルス、サポウイルス、A 群ロタウイルス、アデノウイルス 40/41 型が検出された。ノロウイルス GII 型が 23 件と最も多く、次いで A 群ロタウイルス 12 件、サポウイルス 7 件、アデノウイルス 40/41 型 3 件の順であった。
- (ケ) 感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る); A 群ロタウイルスが 5 件検出された。
- (コ) 手足口病 (P31 図 5 参照); エコーウイルス 18 型が 2 件、コクサッキーウイルス 71 型及び型別不能が各 1 件分離・検出された。
- (サ) ヘルパンギーナ (P32 図 6 参照); コクサッキーウイルス A4 型が 3 件、コクサッキーウイルス A2 型及びエコーウイルス 18 型が各 2 件、型別不能が 1 件分離・検出された。
- (シ) インフルエンザ; インフルエンザが 52 件検出された。B 型山形系統が 22 件と最も多く、AH3 型が 20 件、A2009 型が 10 件の順であった。B 型ビクトリア系

続は検出されなかった。

- (ス) **流行性角結膜炎**；アデノウイルス 20 件が分離・検出された。そのうち、54 型が 14 件と最も多く、56 型が 3 件等であった。
- (セ) **無菌性髄膜炎**；エンテロウイルスが 5 件、ヘルペスウイルスが 2 件、インフルエンザウイルスが 1 件分離検出された。そのうち、エンテロウイルスについては、エコーウイルス 18 型が 2 件等であった。
- (ソ) **RS ウイルス感染症**；RS ウイルスが 4 件検出され、3 件は B 亜型、1 件は A 亜型であった。
- (タ) **水痘**；ヘルペスウイルス 3 が 2 件検出された。

表12 採取月別検体受入状況(平成30年1月～平成30年12月)

臨床診断名(疑いも含む)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
全数把握対象感染症	腸管出血性大腸菌感染症	4				5	2	11	32	15	4			73	
	A型肝炎							1						1	
	日本紅斑熱	1			3	2		1	2		1			10	
	つつが虫病								1					1	
	SFTS	1			1						1			3	
	デング熱								1					1	
	チクングニア								1					1	
	侵襲性肺炎球菌感染症		2												2
	急性脳炎							1							1
	麻疹				1	3	3				3	1			11
	風しん							1	1		5	1			8
小計		6	2	0	5	10	6	15	37	23	8	0	0	112	
病原体定点対象感染症	咽頭結膜熱		2		1	1	3	1		2	2			12	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	3	1	1	1	1	2		2	1	1		14	
	感染性胃腸炎	7	7	8	8	12	11	10	11	11	8	2	6	101	
	ロタウイルス感染性胃腸炎			1	1							1	2	5	
	手足口病	1						1	2			2	2	8	
	ヘルパンギーナ							4	3		1	3		11	
	流行性耳下腺炎													0	
	インフルエンザ	17	20	9	4		3		2	1			1	57	
	急性出血性結膜炎			1		1									2
	流行性角結膜炎	2	3	2	3	2	1		1	2	2	4	4	26	
	細菌性髄膜炎														0
	無菌性髄膜炎	1	2	1	1	1			3	3	1	1		14	
	伝染性紅斑														0
	RSウイルス感染症			1	1	2	1			1	1	1	1	9	
	マイコプラズマ肺炎														0
	水痘	1	1			1							1		4
突発性発疹														0	
小計		30	38	24	20	21	20	18	22	22	16	16	16	263	
計		36	40	24	25	31	26	33	59	45	24	16	16	375	

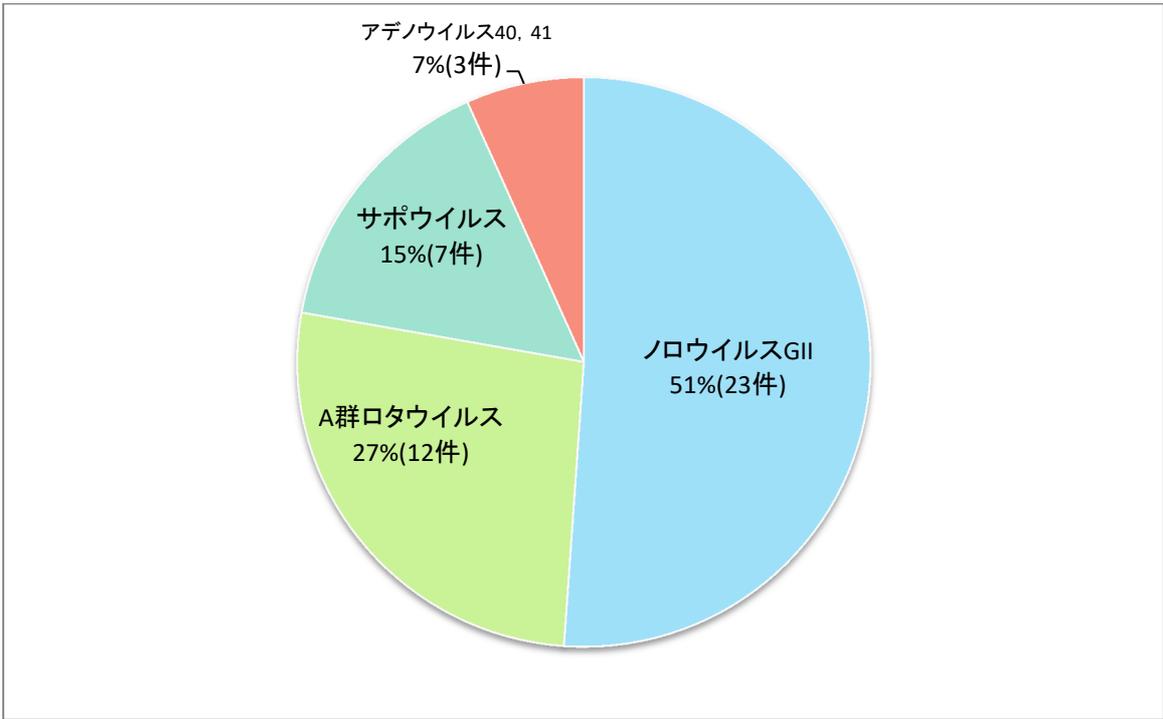


図4 感染性胃腸炎診断の便検体から検出されたウイルスの割合

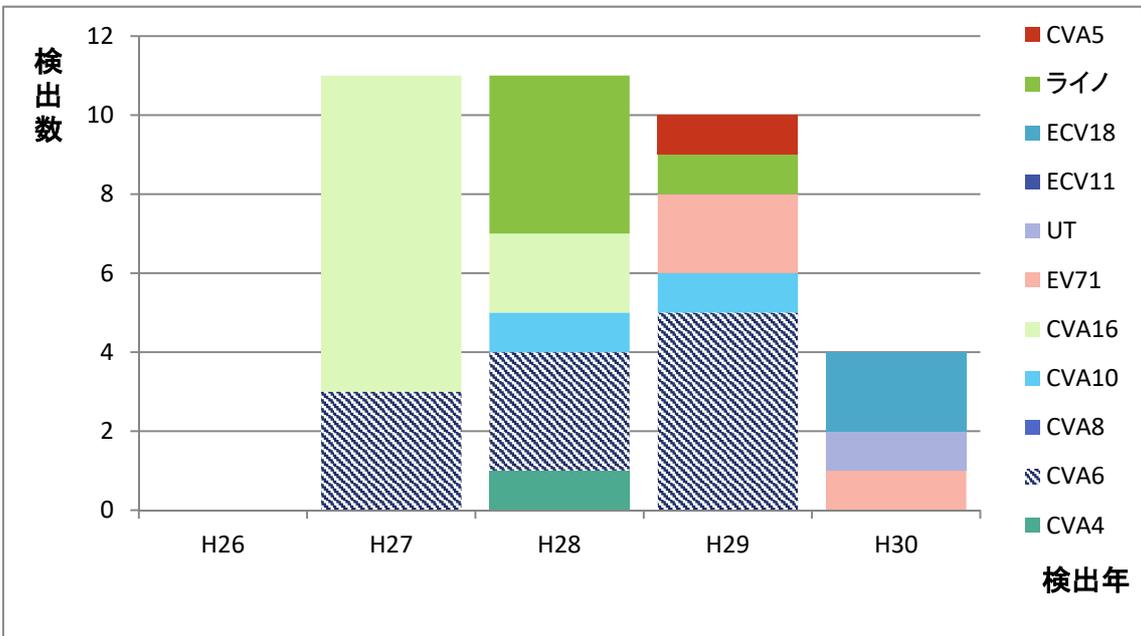


図5 年別手足口病と診断された患者の咽頭ぬぐい液検体からの検出ウイルス

※CV：コクサッキーウイルス UT：型別不能

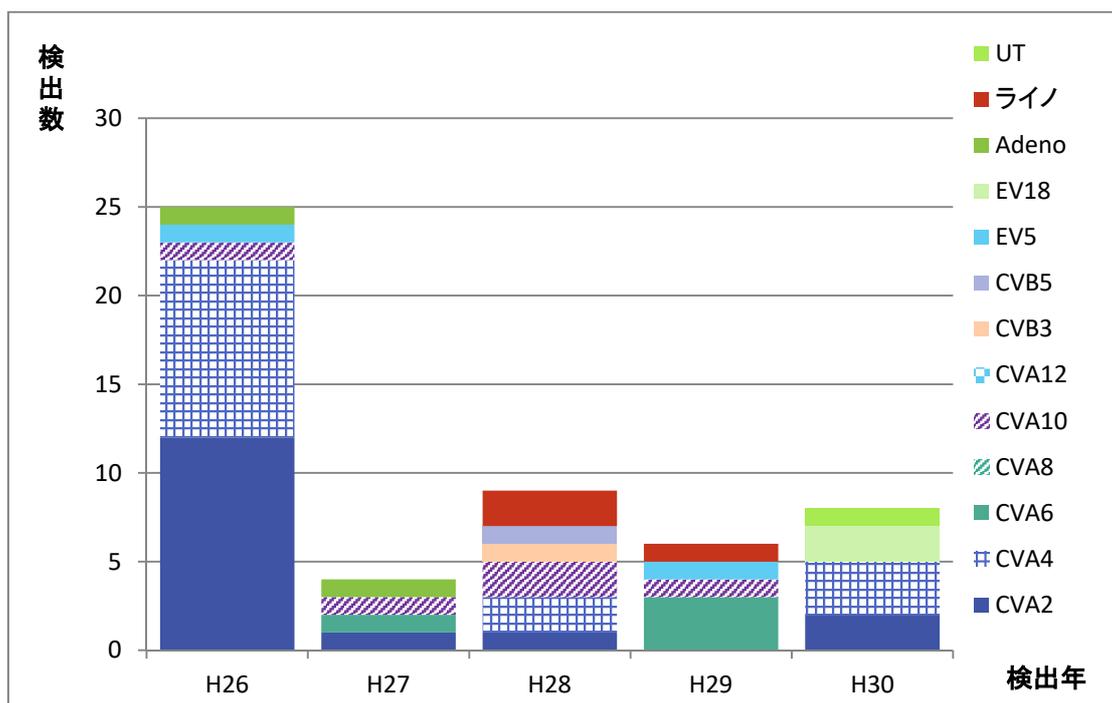


図6 年別ヘルパンギーナと診断された患者の咽頭ぬぐい液検体からの検出ウイルス
 ※CV：コクサッキーウイルス UT：型別不能

表13-a 全数把握感染症 疾病別 病原体分離・検出状況(平成30年1月～12月)

		病原体の種類											計			
		腸管出血性大腸菌O26	腸管出血性大腸菌O103	腸管出血性大腸菌O145	腸管出血性大腸菌O157	日本紅斑熱リケッチア	つつが虫リケッチア	SFTSウイルス	デングウイルス	チクングニアウイルス	コクサッキーウイルス A4型	肺炎球菌		麻しんウイルス	風しんウイルス	
3類	腸管出血性大腸菌感染症		2	1	1											4
4類	日本紅斑熱					2										2
	つつが虫病															0
	SFTS															0
	デング熱															0
	チクングニア熱															0
5類	急性脳炎										1					1
	侵襲性肺炎球菌感染症											2				2
	麻しん															0
	風しん													1		1
計		0	2	1	1	2	0	0	0	0	1	2	0	1	10	

(2) 病原体定点対象感染症

ア 月別ウイルス分離・検出状況 (P36 表 14 参照)

(ア) アデノウイルスは、11 月をピークに検出された。54 型が最も多く検出された。

(P37 図 7 参照)。

(イ) 2017/18 シーズン (2017 年 9 月 4 日～2018 年 9 月 2 日) のインフルエンザウイルスは、A(H1N1)2009 型が主に流行が始まり、当初多く検出された。その後、例年になく B 型山形系統が年末から流行し、春にかけて多く検出された。また、2018 年初めには A(H1N1)2009 型が減少し、AH3 型が増加した。さらに、シーズン終りに A(H1N1)2009 型が検出された (P37 図 8-a 参照)。

2017/18 シーズンに AH3 型は 21 件、A(H1N1)2009 型は 13 件、B 型は 25 件検出され、B 型は山形系統が 24 件、ビクトリア系統が 1 件であった (P38 図 9 参照)。検出された A(H1N1)2009 型のうち、9 件についてタミフル耐性遺伝子を調べたところ、4 件からはタミフル耐性遺伝子は検出されず、残りは判定不能であった。

2018/19 シーズン (2018 年 9 月 3 日～2019 年 9 月 1 日) のインフルエンザウイルスは、AH3 型と A(H1N1)2009 型が主に流行した (P38 図 8-b 参照)。

2018/19 シーズンに AH3 型は 20 件、A(H1N1)2009 型は 10 件、B 型は 1 件検出された。B 型は山形系統が 1 件のみで、ビクトリア系統は検出されなかった (P38 図 9 参照)。検出された A(H1N1)2009 型のうち、10 件についてタミフル耐性遺伝子を調べたところ、4 件からはタミフル耐性遺伝子は検出されず、残りは判定不能であった。

(ウ) エンテロウイルスについては、7 月に最も多く分離・検出された。型が多かったのはエコーウイルス 18 型が 6 件、CVA4 が 4 件であった (P39 図 10 参照)。

(エ) RS ウイルスは、2 月から 5 月にかけて B 亜型が 3 件、9 月に A 亜型が 1 件検出された。

(オ) A 群ロタウイルスは、6 月、7 月、9 月を除いて検出された (P36 表 14 参照)。

(カ) ノロウイルスは 4 月と 9 月から 11 月を除いて検出された (P39 図 11 参照)。遺伝子群はすべて GII であった。

(キ) サポウイルスは 2 月、4 月、9 月から 11 月に検出された (P39 図 11 参照)。

(ク) ヘルペスウイルスについては、ヘルペスウイルス 3 が 1 月と 8 月、ヘルペスウイルス 5 が 9 月に検出された。

表14 採取月別ウイルス分離・検出状況(平成30年1月～12月)

検出病原体	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
アデノ 1型	1				1			1				
アデノ 2型	1	1	1	1					1			
アデノ 3型												
アデノ 4型												
アデノ 5型												
アデノ 6型												
アデノ 7型			1									
アデノ 8型												
アデノ 40/41型					1							2
アデノ 54型								1	2	2	6	3
アデノ 56型				1			1	1				
アデノ 64型												
アデノ 型別不能					1	1			1			
インフルエンザ AH3	4	5	3	2	4							2
インフルエンザ A(H1N1)2009	5	1					3	1				
インフルエンザ B Victoria系統												
インフルエンザ B Yamagata系統	8	8	5	1								
コクサッキー A2型						1				1		
コクサッキー A4型						1	2			1		
コクサッキー A5型												
コクサッキー A6型												
コクサッキー A10型												
コクサッキー A16型												
コクサッキー B3型												
コクサッキー B5型												
エコー 3型												
エコー 5型												
エコー 11型									1			
エコー 18型						1	5					
エコー 25型												
エンテロ A71型										1		
ライノ												
エンテロ 型別不能						1	2					
ムンプス												
RS A亜型									1			
RS B亜型		1	1		1							
A群ロタ	2	4	2	3	1			1		1	1	2
アストロ												
ノロ GⅡ	1	3	1		5	4	6	1				2
サポ		1		3					1	1	1	
ヘルペス 1,2型												
ヘルペス 3	2							1				
ヘルペス 5									1			
ヘルペス 6												
ヘルペス 7												

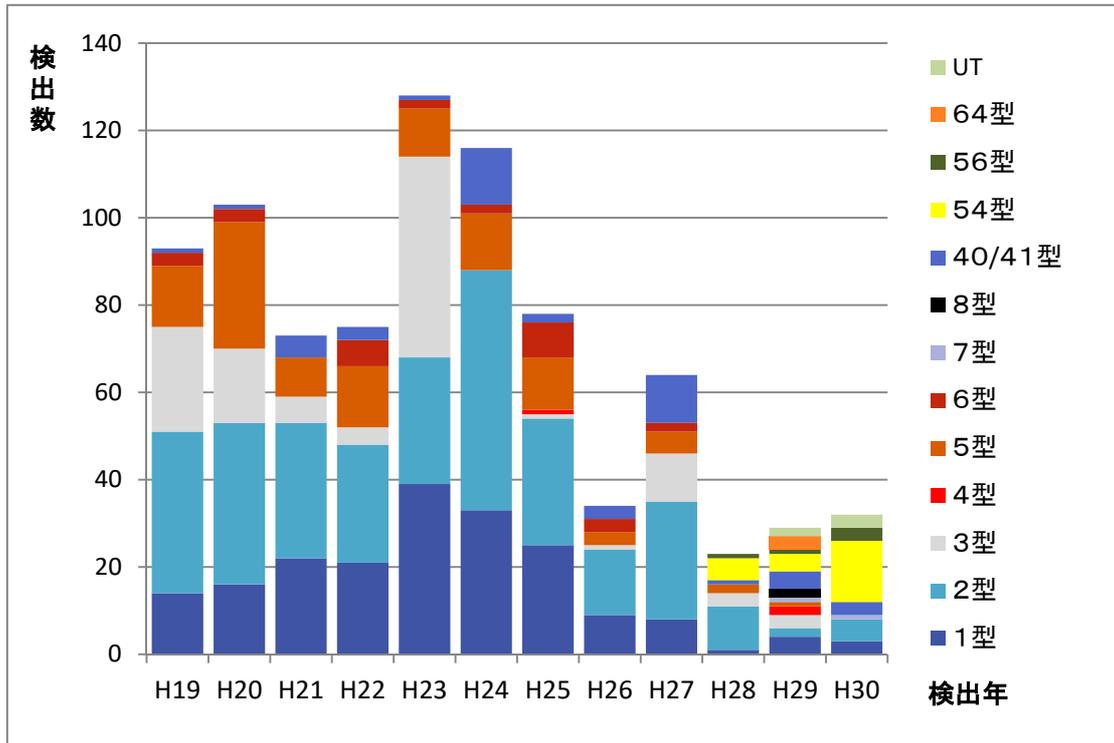


図7 年別型別 アデノウイルス検出状況

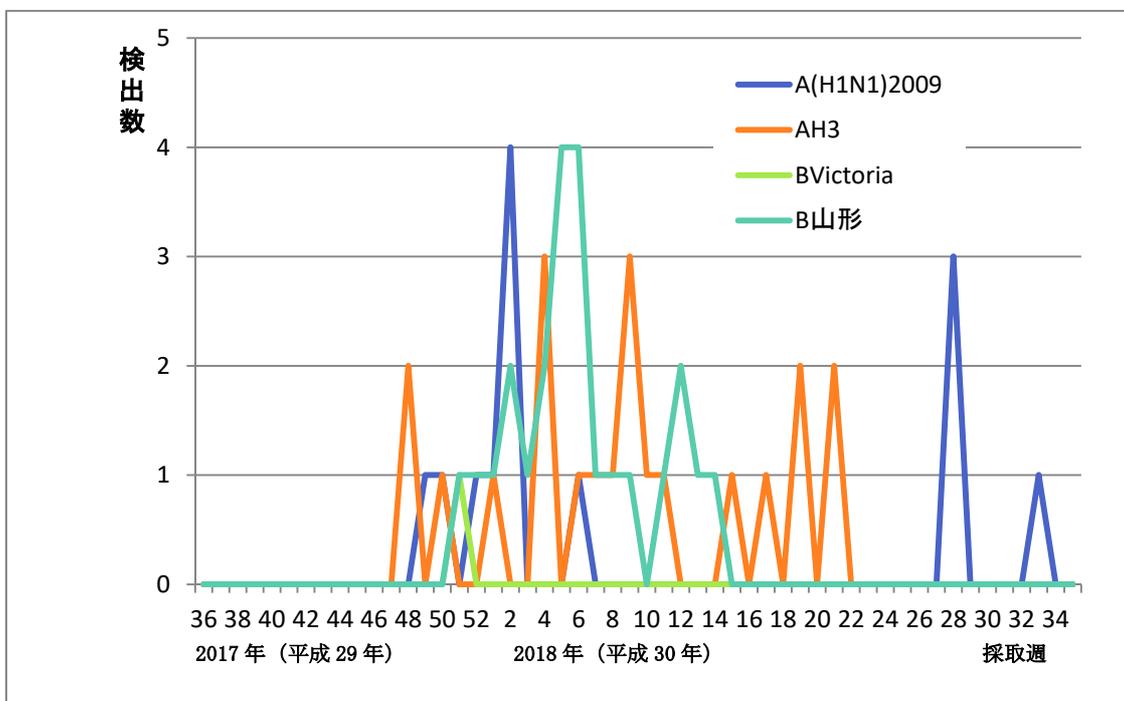


図8-a 2017/18 シーズン インフルエンザウイルス検出状況

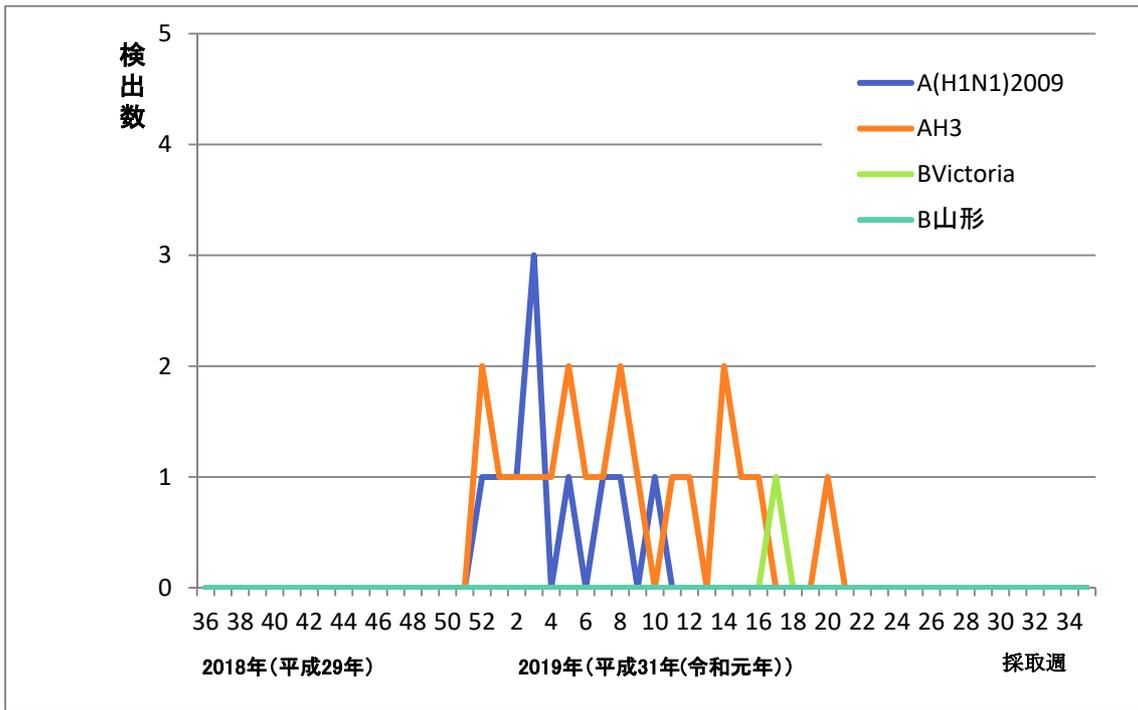


図 8-b 2018/19 シーズン インフルエンザウイルス検出状況

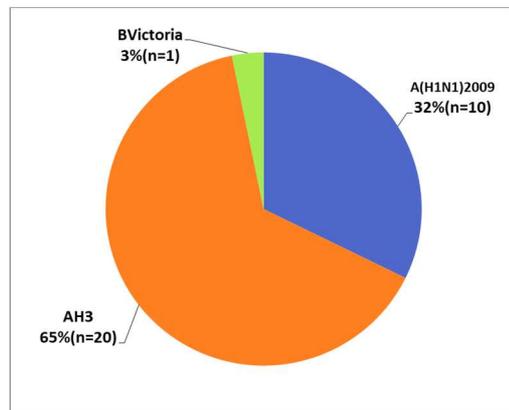
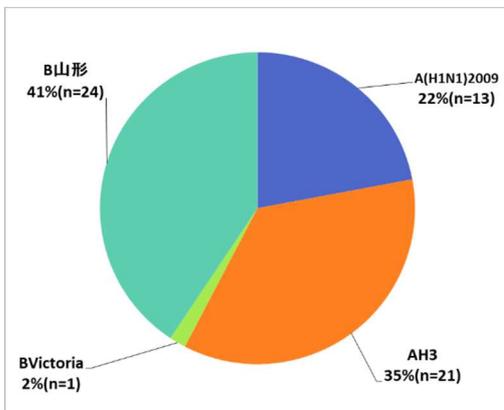


図 9 2017/18、2018/19 シーズンにおけるインフルエンザウイルス型別検出割合

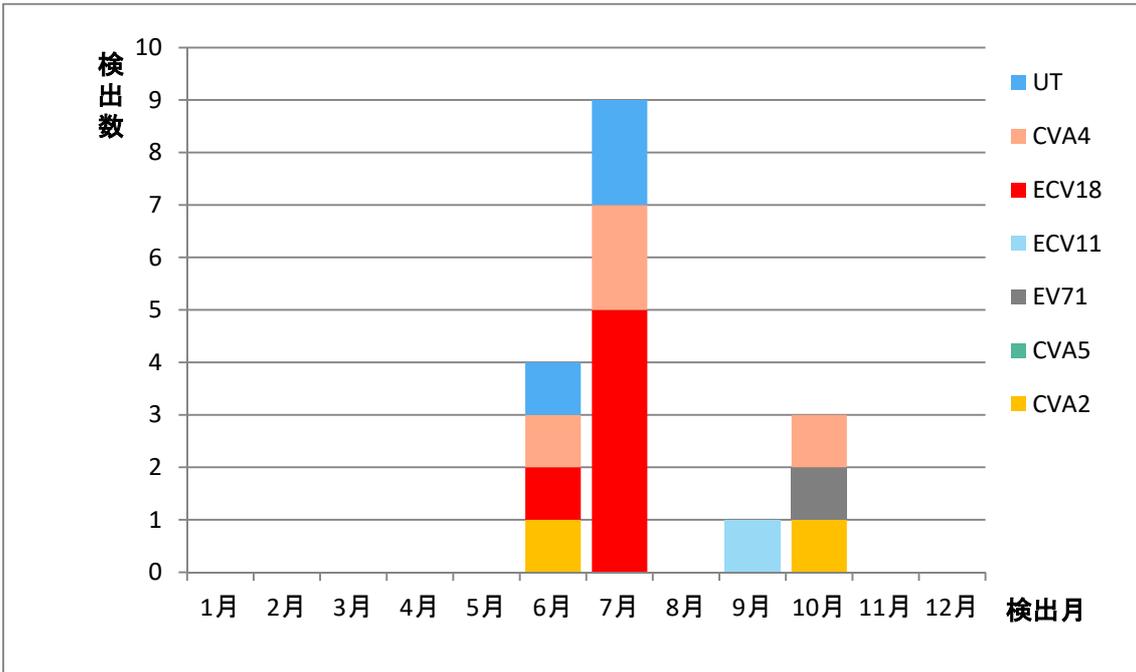


図 10 平成 30 年 月別 エンテロウイルス検出状況
 ※CV：コクサッキーウイルス UT：型別不能

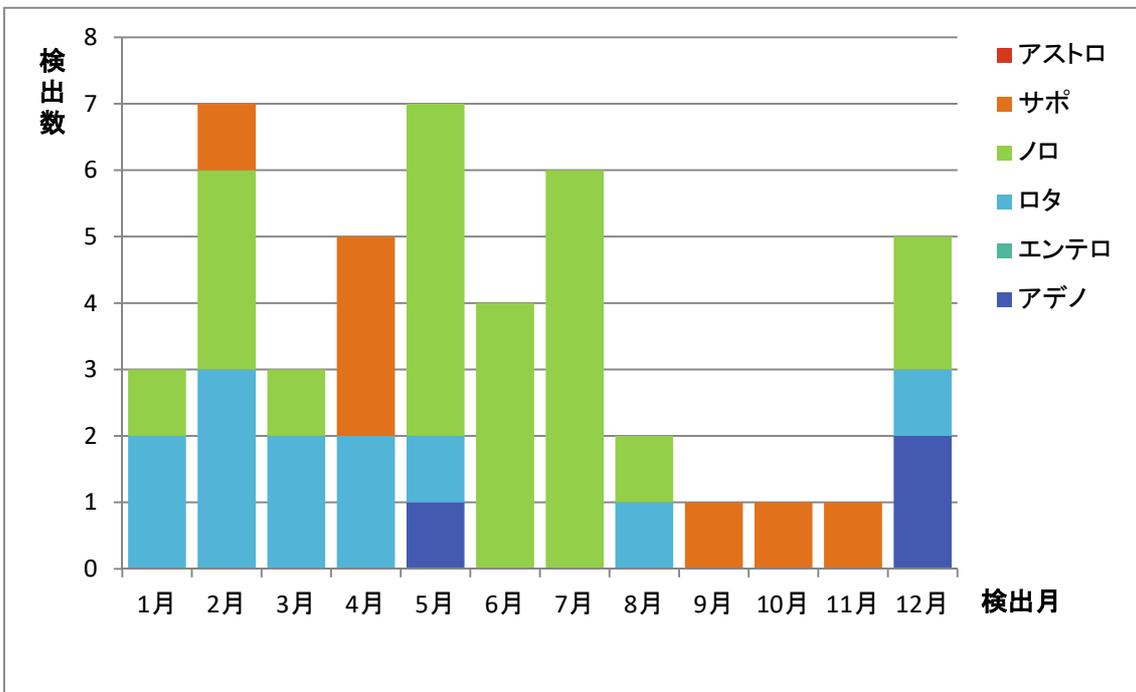


図 11 平成 30 年 月別 便検体由来ウイルス検出状況

イ 月別細菌分離・検出状況

A 群溶血性レンサ球菌が 3 件分離された。血清型は T1 型が 1 件、型別不能が 2 件であった。1 月、3 月、9 月に分離された（表 15 参照）。

表 15 月別 A 群レンサ球菌分離状況(平成 30 年 1 月～12 月)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
A群レンサ球菌型別不能			1						1				2
A群レンサ球菌T1型	1												1

(3)全数把握対象感染症

ア ウイルス検査の概要

(ア) SFTSウイルス

各保健所の積極的疫学調査により 3 名の検査を実施したが、いずれの患者からも SFTS ウイルスは検出されなかった。

(イ) エンテロウイルス

急性脳炎に係る保健所の積極的疫学調査により 1 名の検査を実施した。(検査項目：エンテロウイルス、パレコウイルス、ヘルペスウイルス) その結果、コクサッキーウイルス A4 型が検出された。

(ウ) 麻しんウイルス

各保健所の積極的疫学調査により 11 名の検査を実施したが、いずれの患者からも麻しんウイルスは検出されなかった。

(エ) 風しんウイルス

各保健所の積極的疫学調査により 8 名の検査を実施した。その内、1 名から風しんウイルスが検出された。その遺伝子型は 1E であった。

イ リケッチア検査の概要

各保健所の積極的疫学調査により、10 件の日本紅斑熱の検査を実施し、2 件の日本紅斑熱リケッチア陽性を確認した。詳細は以下のとおりである(表 16 参照)。内、各保健所の積極的疫学調査により 1 件のツツガムシ検査も国立感染症研究所へ委託したが、抗体検査は陰性であった。

表 16 日本紅斑熱患者概要

番号	発生年月	性別	年齢	発生地	症状			
					発熱	発疹	刺し口	肝機能異常
1	2018年7月	男	80歳代	岩美郡	○	○	○	○
2	2018年10月	女	60歳代	県外	○	○	○	

ウ 細菌検査の概要

(ア) 腸管出血性大腸菌

平成30年には、県内で腸管出血性大腸菌患者（健康保菌者を含む）は22名発生した。当所では、患者（陰性化確認）と患者の接触者（結果陽性の場合の陰性化確認も含む）について63検体（便）の検査を実施した。その結果、3件の腸管出血性大腸菌を分離・同定し、これらの血清型は、O103とO157であった。また、血清型が不明な菌株1株について検査を実施したところ、O145であった。さらに、当所で分離・同定された菌株3株と他所で分離・同定された菌株5株について毒素遺伝子を検査したところ、「VT1・VT2」が2株、VT1が3株、VT2が2株検出された。詳細は以下のとおり（表17参照）。

表17 腸管出血性大腸菌症発生状況(平成30年1月～12月)

No.	検出月日	当所検査	居住地域	性別	年齢※	症状の有無	O血清型	Vero毒素型
1	5月15日	血清型別	東部	男	20歳代	有	145	VT2
2	5月18日	毒素型	東部	男	20歳代	有	26	VT1
3	5月21日	毒素型	東部	男	20歳代	有	26	VT1
4	6月18日	—	西部	男	50歳代	有	157	VT2
5	7月4日	—	西部	女	20歳代	有	157	VT1・VT2
6	7月17日	—	西部	男	幼児	有	157	VT2
7	7月21日	分離・同定	西部	男	20歳代	無	157	VT2
8	7月24日	—	西部	男	30歳代	無	157	VT2
9	8月4日	—	中部	男	30歳代	有	157	VT1・VT2
10	8月3日	—	東部	男	幼児	有	103	VT1
11	8月6日	分離・同定	東部	女	小学生	有	103	VT1
12	8月6日	分離・同定	東部	女	30歳代	有	103	VT1
13	8月7日	毒素型	中部	女	60歳代	有	157	VT1・VT2
14	8月15日	—	中部	男	20歳代	有	157	VT1・VT2
15	8月19日	—	西部	女	40歳代	有	157	VT1・VT2
16	8月21日	—	西部	女	20歳代	有	157	VT2
17	8月25日	—	西部	女	児童	有	157	VT1・VT2
18	9月5日	毒素型	中部	男	20歳代	有	157	VT2
19	9月16日	毒素型	中部	女	80歳代	有	157	VT1・VT2
20	9月27日	—	西部	女	50歳代	有	157	VT1・VT2
21	9月29日	—	東部	女	20歳代	有	157	VT1・VT2
22	10月1日	—	西部	女	20歳代	有	157	VT1・VT2

※表中の着色部分はそれぞれ同一事例を示す。それ以外は個別事例

※乳児：1歳未満 / 幼児：1歳以上

(イ) 侵襲性肺炎球菌感染症

各保健所の積極的疫学調査により2件の血清型検査を国立感染症研究所へ委託した。その結果、すべて非ワクチン株（13価肺炎球菌結合ワクチンに係る）であった。

4 鳥取県感染症発生動向調査情報（月報）

（鳥取県感染症対策推進協議会情報解析部会）

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年2月13日(火)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第1週から平成30年第4週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(1週～4週)4週 (H30.1.1～H30.1.28)	前回(49週～52週)4週 (H29.12.4～H29.12.31)	前々回(45週～48週)4週 (H29.11.6～H29.12.3)
1 インフルエンザ (4,464) [↑3,356]	1 インフルエンザ (1,108)	1 感染性胃腸炎 (454)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(487) [↓62]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(549)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(409)
3 感染性胃腸炎 (289) [↓213]	3 感染性胃腸炎 (502)	3 手足口病 (69)
4 水痘 (26) [↑3]	4 手足口病 (70)	4 RSウイルス感染症 (65)
5 咽頭結膜熱 (25) [↓28]	5 咽頭結膜熱 (53)	5 インフルエンザ (62)
5 突発性発疹 (25) [↓12]	6 RSウイルス感染症 (47)	6 咽頭結膜熱 (54)
7 その他 (46) [↓58]	7 その他 (104)	7 その他 (143)
(合計 5,362)	(合計 2,433)	(合計 1,256)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

※百日咳は、H30年1月1日より定点報告から全数報告に変更になりましたので、前回、前々回を含めて対象外としています。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、5,362件であり、120%(2,929件)の増となった。

増加した疾病	減少した疾病
インフルエンザ 303%	流行性角結膜炎 85%
	手足口病 77%
	RSウイルス感染症 64%
	咽頭結膜熱 53%
	感染性胃腸炎 42%
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 11%

3 コメント

- ・インフルエンザ警報が発令されました。患者報告数は過去最高レベルであり、また、A型とB型が流行しており、引き続き注意が必要です。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。特に、中部及び西部地区で患者報告数が多く、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年3月13日(火)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第5週から平成30年第8週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(5週～8週)4週 (H30.1.29～H30.2.25)	前回(1週～4週)4週 (H30.1.1～H30.1.28)	前々回(49週～52週)4週 (H29.12.4～H29.12.31)
1 インフルエンザ (4,301) [↓163]	1 インフルエンザ (4,464)	1 インフルエンザ (1,108)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (516) [↑29]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (487)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (549)
3 感染性胃腸炎 (385) [↑96]	3 感染性胃腸炎 (289)	3 感染性胃腸炎 (502)
4 咽頭結膜熱 (28) [↑3]	4 水痘 (26)	4 手足口病 (70)
5 その他 (57) [↑11]	5 咽頭結膜熱 (25)	5 咽頭結膜熱 (53)
(合計 5,287)	5 突発性発疹 (25)	6 RSウイルス感染症 (47)
	7 その他 (46)	7 その他 (104)
	(合計 5,362)	(合計 2,433)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

※百日咳は、H30年1月1日より定点報告から全数報告に変更になりましたので、前々回についても対象外としています。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、5,287件であり、1%(75件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
感染性胃腸炎	33%	インフルエンザ	4%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6%		

3 コメント

- ・インフルエンザ警報が発令中です。県内全域で患者報告数が多く、注意が必要です。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。患者報告数は引き続き多い状況であり、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年4月10日(火)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第9週から平成30年第13週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(9週～13週)5週 (H30. 2. 26 ~ H30. 4. 1)	前回(4週～8週)5週 (H30. 1. 22 ~ H30. 2. 25)	前々回(51週～3週)5週 (H29. 12. 18 ~ H30. 1. 21)
1 インフルエンザ [※] (1, 571) [↓4, 030]	1 インフルエンザ [※] (5, 601)	1 インフルエンザ [※] (4, 006)
2 感染性胃腸炎 (515) [↑ 49]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(660)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(634)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (464) [↓196]	3 感染性胃腸炎 (466)	3 感染性胃腸炎 (458)
4 突発性発疹 (37) [↑ 8]	4 咽頭結膜熱 (35)	4 咽頭結膜熱 (48)
5 咽頭結膜熱 (30) [↓ 5]	5 突発性発疹 (29)	5 RSウイルス感染症 (45)
6 RSウイルス感染症 (26) [↑ 18]	6 水痘 (20)	6 手足口病 (35)
7 その他 (39) [↑ 8]	7 その他 (31)	7 その他 (87)
(合計 2, 682)	(合計 6, 842)	(合計 5, 313)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

※百日咳は、H30年1月1日より定点報告から全数報告に変更になりましたので、前々回についても対象外としています。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、2,682件であり、61%(4,160件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
感染性胃腸炎	11%	インフルエンザ	72%
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	30%

3 コメント

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。患者報告数は減少傾向を示していますが、引き続き注意が必要です。
- ・インフルエンザ警報は4月4日に解除されましたが、患者の発生は認められるため、引き続き注意が必要です。
- ・梅毒は、患者報告数が増加傾向を示しており、警戒が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年5月10日(木)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第14週から平成30年第17週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(14週～17週)4週 (H30.4.2～H30.4.29)	前回(10週～13週)4週 (H30.3.5～H30.4.1)	前々回(6週～9週)4週 (H30.2.5～H30.3.4)
1 感染性胃腸炎 (779) [↑390]	1 インフルエンザ (1,017)	1 インフルエンザ (3,681)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (405) [↑25]	2 感染性胃腸炎 (389)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (474)
3 インフルエンザ (352) [↓665]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (380)	3 感染性胃腸炎 (418)
4 突発性発疹 (36) [↑2]	4 突発性発疹 (34)	4 咽頭結膜熱 (26)
5 咽頭結膜熱 (29) [↑2]	5 咽頭結膜熱 (27)	5 突発性発疹 (21)
5 感染性胃腸炎(ロタウイルスによるものに限る) (29) [↑24]	6 RSウイルス感染症 (24)	6 その他 (40)
7 その他 (55) [↑24]	7 その他 (31)	(合計 4,660)
(合計 1,685)	(合計 1,902)	

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,685件であり、11%(217件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるものに限る)	480%	インフルエンザ	65%
感染性胃腸炎	100%		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7%		

3 コメント

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。患者報告数は引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・感染性胃腸炎の患者報告数が急増しており、注意が必要です。
- ・梅毒の患者が継続して発生しており、警戒が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年6月12日(火)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第18週から平成30年第22週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(18週～22週)5週 (H30.4.30～H30.6.3)	前回(13週～17週)5週 (H30.3.26～H30.4.29)	前々回(8週～12週)5週 (H30.2.19～H30.3.25)
1 感染性胃腸炎 (1,051) [↑176]	1 感染性胃腸炎 (875)	1 インフルエンザ (2,282)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (458) [↓28]	2 インフルエンザ (494)	2 感染性胃腸炎 (531)
3 インフルエンザ (176) [↓318]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (486)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (508)
4 咽頭結膜熱 (89) [↑49]	4 突発性発疹 (46)	4 突発性発疹 (33)
5 突発性発疹 (56) [↑10]	5 咽頭結膜熱 (40)	5 咽頭結膜熱 (24)
6 RSウイルス感染症 (36) [↑9]	6 感染性胃腸炎(ロタウイルスによるものに限る) (31)	6 RSウイルス感染症 (20)
7 その他 (79) [↑11]	7 その他 (68)	7 その他 (44)
(合計 1,945)	(合計 2,040)	(合計 3,442)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,945件であり、5%(95件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
咽頭結膜熱	123%	インフルエンザ	64%
突発性発疹	22%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6%
感染性胃腸炎	20%		

3 コメント

- ・咽頭結膜熱の患者報告数が増加しており、第22週に警報レベルに達したため、咽頭結膜熱警報が発令され、注意が必要です。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。患者報告数は引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・感染性胃腸炎は、患者報告数が引き続き増加しており、注意が必要です。
- ・梅毒は、昨年の患者総数を上回り、警戒が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年7月10日(火)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第23週から平成30年第26週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(23週～26週)4週 (H30.6.4～H30.7.1)	前回(19週～22週)4週 (H30.5.7～H30.6.3)	前々回(15週～18週)4週 (H30.4.9～H30.5.6)
1 感染性胃腸炎 (891) [↓ 36]	1 感染性胃腸炎 (927)	1 感染性胃腸炎 (807)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (354) [↓ 37]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (391)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (372)
3 咽頭結膜熱 (73) [↓ 6]	3 インフルエンザ (142)	3 インフルエンザ (300)
4 突発性発疹 (51) [↑ 1]	4 咽頭結膜熱 (79)	4 感染性胃腸炎(ロタウイルスによるものに限る) (37)
5 ヘルパンギーナ (30) [↑ 28]	5 突発性発疹 (50)	5 突発性発疹 (34)
6 その他 (68) [↑ 10]	6 RSウイルス感染症 (27)	6 咽頭結膜熱 (31)
(合計 1,467)	7 その他 (58)	7 その他 (64)
	(合計 1,674)	(合計 1,645)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,467件であり、12%(207件)の減となった。

増加した疾病	減少した疾病
突発性発疹 2%	インフルエンザ 96%
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 9%
	咽頭結膜熱 8%
	感染性胃腸炎 4%

3 コメント

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。引き続き患者報告数が多い状況であり、注意が必要です。
- ・咽頭結膜熱警報は6月27日に解除されましたが、引き続き患者報告数が多い状況であり、注意が必要です。
- ・感染性胃腸炎は、引き続き患者報告数が多い状況であり、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年8月9日(木)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第27週から平成30年第30週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(27週～30週)4週 (H30.7.2～H30.7.29)	前回(23週～26週)4週 (H30.6.4～H30.7.1)	前々回(19週～22週)4週 (H30.5.7～H30.6.3)
1 感染性胃腸炎 (591) [↓ 300]	1 感染性胃腸炎 (891)	1 感染性胃腸炎 (927)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (309) [↓ 45]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (354)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (391)
3 ヘルパンギーナ (106) [↑ 76]	3 咽頭結膜熱 (73)	3 インフルエンザ (142)
4 突発性発疹 (45) [↓ 6]	4 突発性発疹 (51)	4 咽頭結膜熱 (79)
5 咽頭結膜熱 (40) [↓ 33]	5 ヘルパンギーナ (30)	5 突発性発疹 (50)
6 手足口病 (23) [↑ 12]	6 その他 (68)	6 RSウイルス感染症 (27)
7 その他 (55) [↓ 13]	(合計 1,467)	7 その他 (58)
(合計 1,169)		(合計 1,674)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,169件であり、20%(298件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
ヘルパンギーナ	253%	咽頭結膜熱	45%
		感染性胃腸炎	34%
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13%
		突発性発疹	12%

3 コメント

- ・ヘルパンギーナの患者報告数が増加しており、特に中部及び西部地区で多い状況です。
- ・梅毒の患者報告数が引き続き多い状況であり、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年9月11日(火)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第31週から平成30年第35週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(31週～35週)5週 (H30.7.30～H30.9.2)	前回(26週～30週)5週 (H30.6.25～H30.7.29)	前々回(21週～25週)5週 (H30.5.21～H30.6.24)
1 感染性胃腸炎 (472) [↓ 325]	1 感染性胃腸炎 (797)	1 感染性胃腸炎 (1,160)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (278) [↓ 103]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (381)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (483)
3 ヘルパンギーナ (156) [↑ 40]	3 ヘルパンギーナ (116)	3 咽頭結膜熱 (106)
4 RSウイルス感染症 (105) [↑ 80]	4 咽頭結膜熱 (56)	4 突発性発疹 (61)
5 手足口病 (43) [↑ 17]	4 突発性発疹 (56)	5 インフルエンザ (45)
6 突発性発疹 (36) [↓ 20]	6 手足口病 (26)	6 水痘 (22)
7 その他 (62) [↓ 6]	7 その他 (68)	6 ヘルパンギーナ (22)
(合計 1,152)	(合計 1,500)	7 その他 (60)
		(合計 1,959)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,152件であり、23%(348件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
RSウイルス感染症	320%	咽頭結膜熱	63%
手足口病	65%	感染性胃腸炎	41%
ヘルパンギーナ	34%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	27%

3 コメント

- ・ヘルパンギーナの患者報告数が引き続き増加しており、注意が必要です。
- ・RSウイルス感染症の患者報告数が増加しており、注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数が引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・全国で風しんの流行の兆しが見えています。特に30代から40代の男性で多くの患者が発生しています。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年10月11日(木)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第36週から平成30年第39週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(36週～39週)4週 (H30.9.3～H30.9.30)	前回(32週～35週)4週 (H30.8.6～H30.9.2)	前々回(28週～31週)4週 (H30.7.9～H30.8.5)
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (266) [↑ 41]	1 感染性胃腸炎 (367)	1 感染性胃腸炎 (505)
2 感染性胃腸炎 (262) [↓ 105]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (225)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (271)
3 RSウイルス感染症 (175) [↑ 87]	3 ヘルパンギーナ (112)	3 ヘルパンギーナ (135)
4 手足口病 (92) [↑ 60]	4 RSウイルス感染症 (88)	4 突発性発疹 (47)
5 ヘルパンギーナ (71) [↓ 41]	5 手足口病 (32)	5 咽頭結膜熱 (33)
6 突発性発疹 (37) [↑ 11]	6 突発性発疹 (26)	6 RSウイルス感染症 (30)
7 その他 (77) [↑ 29]	7 その他 (48)	7 その他 (65)
(合計 980)	(合計 898)	(合計 1,086)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、980件であり、9%(82件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
手足口病	188%	ヘルパンギーナ	37%
流行性角結膜炎	133%	感染性胃腸炎	29%
咽頭結膜熱	100%		
RSウイルス感染症	99%		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	18%		

3 コメント

- ・RSウイルス感染症の患者報告数は引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・手足口病の患者報告数が増加しています。特に中部地区で多い状況であり、注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は、引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・風しんの患者報告数が全国的に多い状況です。多くは30代から40代の男性が占めています。抗体価の低い妊婦の方は、特に注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年11月13日(火)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第40週から平成30年第43週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(40週～43週)4週 (H30.10.1～H30.10.28)	前回(36週～39週)4週 (H30.9.3～H30.9.30)	前々回(32週～35週)4週 (H30.8.6～H30.9.2)
1 感染性胃腸炎 (233) [↓ 29]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (266)	1 感染性胃腸炎 (367)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (228) [↓ 38]	2 感染性胃腸炎 (262)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (225)
3 手足口病 (160) [↑ 68]	3 RSウイルス感染症 (175)	3 ヘルパンギーナ (112)
4 RSウイルス感染症 (106) [↓ 69]	4 手足口病 (92)	4 RSウイルス感染症 (88)
5 ヘルパンギーナ (80) [↑ 9]	5 ヘルパンギーナ (71)	5 手足口病 (32)
6 突発性発疹 (28) [↓ 9]	6 突発性発疹 (37)	6 突発性発疹 (26)
7 その他 (55) [↓ 22]	7 その他 (77)	7 その他 (48)
(合計 890)	(合計 980)	(合計 898)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、890件であり、9%(90件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
手足口病	74%	流行性角結膜炎	54%
ヘルパンギーナ	13%	RSウイルス感染症	39%
		咽頭結膜熱	30%
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14%
		感染性胃腸炎	11%

3 コメント

- ・RSウイルス感染症の患者報告数は引き続き多い状況です。
- ・手足口病の患者報告数が増加しています。特に中部地区で多い状況であり、注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・風しんの患者報告数が引き続き全国的に多い状況です。多くは30代から40代の男性が占めています。抗体価の低い妊婦の方は、特に注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年12月11日(火)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第44週から平成30年第48週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(44週～48週)5週 (H30.10.29～H30.12.2)	前回(39週～43週)5週 (H30.9.24～H30.10.28)	前々回(34週～38週)5週 (H30.8.20～H30.9.23)
1 感染性胃腸炎 (417) [↑131]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (288)	1 感染性胃腸炎 (401)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (397) [↑109]	2 感染性胃腸炎 (286)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (318)
3 手足口病 (140) [↓49]	3 手足口病 (189)	3 RSウイルス感染症 (178)
4 RSウイルス感染症 (52) [↓99]	4 RSウイルス感染症 (151)	4 ヘルパンギーナ (99)
5 インフルエンザ (48) [↑43]	5 ヘルパンギーナ (94)	5 手足口病 (78)
5 ヘルパンギーナ (48) [↓46]	6 突発性発疹 (35)	6 突発性発疹 (47)
7 その他 (125) [↑59]	7 その他 (66)	7 その他 (88)
(合計 1,227)	(合計 1,109)	(合計 1,209)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,227件であり、11%(118件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
インフルエンザ	860%	RSウイルス感染症	66%
感染性胃腸炎	46%	ヘルパンギーナ	49%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38%	手足口病	26%

3 コメント

- ・インフルエンザの患者報告数が増えており、注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・風しんの患者報告数が引き続き全国的に多い状況です。多くは30代から40代の男性が占めています。抗体価の低い妊婦の方は、特に注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成31年1月10日(木)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第49週から平成30年第52週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(49週～52週)4週 (H30. 12. 3 ~ H30. 12. 30)	前回(45週～48週)4週 (H30. 11. 5 ~ H30. 12. 2)	前々回(41週～44週)4週 (H30. 10. 8 ~ H30. 11. 4)
1 感染性胃腸炎 (470) [↑ 114]	1 感染性胃腸炎 (356)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (256)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (340) [↑ 19]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (321)	2 感染性胃腸炎 (221)
3 インフルエンザ (279) [↑ 233]	3 手足口病 (114)	3 手足口病 (135)
4 手足口病 (85) [↓ 29]	4 インフルエンザ (46)	4 RSウイルス感染症 (83)
5 RSウイルス感染症 (42) [↑ 3]	5 RSウイルス感染症 (39)	5 ヘルパンギーナ (74)
6 咽頭結膜熱 (41) [↑ 21]	6 ヘルパンギーナ (32)	6 突発性発疹 (26)
7 その他 (125) [↑ 30]	7 その他 (95)	7 その他 (70)
(合計 1, 382)	(合計 1, 003)	(合計 865)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,382件であり、38%(379件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
インフルエンザ	507%	手足口病	25%
咽頭結膜熱	105%		
感染性胃腸炎	32%		
流行性角結膜炎	26%		
RSウイルス感染症	8%		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6%		

3 コメント

- ・インフルエンザは流行が始まり、注意が必要です。
- ・感染性胃腸炎の患者報告数が上昇傾向を示しており、注意が必要です。
- ・流行性角結膜炎の患者報告数が中部地区で多い状況であり、注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・風しんの患者報告数は全国的に多い状況です。多くは30歳代から50歳代の男性が占めています。抗体価の低い妊婦の方は、特に注意が必要です。

5 参 考 资 料

指定届出機関（定点把握対象の5類感染症患者定点医療機関）

平成30年12月31日現在

定点区分	医療機関の名称	所在地	就任日
小児科 (インフルエンザ) 19	医療法人石谷小児科医院	鳥取市上魚町 13	H11.4.1～
	医療法人たなか小児科医院	鳥取市興南町 76	〃
	こどもクリニックふかざわ	鳥取市南隈 565	H24.4.1～
	おくだこどもクリニック	鳥取市湖山町東 3-67	〃
	鳥取赤十字病院（小児科）	鳥取市尚徳町 117	H22.4.1～
	中山小児科内科医院	八頭郡八頭町宮谷 206-9	H11.4.1～
	田中医院	鳥取市青谷町井手 575	H28.4.1～
	医療法人社団荻原医院	鳥取市河原町長瀬 82-1	H11.4.1～
	医療法人社団平本小児科医院	倉吉市山根 637-6	〃
	医療法人まつだ小児科医院	倉吉市新町 3-1178-3	〃
	鳥取県立厚生病院（小児科）	倉吉市東昭和町 150	〃
	医療法人せのおクリニック	東伯郡琴浦町赤崎 1984-10	〃
	こどもクリニックかさぎ	米子市中町 76-2	〃
	医療法人社団白石医院	米子市安倍 129-3	〃
	谷本こどもクリニック	米子市榎原 1888-3	〃
	医療法人同愛会博愛病院（小児科）	米子市両三柳 1880	〃
	ファミリークリニックせぐち小児科	米子市西福原 9-16-26	H23.8.1～
	岡空小児科医院	境港市浜ノ町 127	H11.4.1～
	日南町国民健康保険日南病院(小児科)	日野郡日南町生山 511-7	〃
内科 (インフルエンザ) 10	医療法人安陪内科医院	鳥取市吉方温泉 3-811-2	〃
	鳥取市立病院（内科）	鳥取市的場 1-1	〃
	鳥取県立中央病院（内科）	鳥取市江津 730	〃
	鳥取赤十字病院（内科）	鳥取市尚徳町 117	〃
	のぐち内科クリニック	倉吉市上井町 1-8-5	H29.4.1～
	鳥取県立厚生病院（内科）	倉吉市東昭和町 150	H11.4.1～
	医療法人クリ内科胃腸科クリニック	米子市西福原 6-2-28	〃
	鳥取県済生会境港総合病院（内科）	境港市米川町 44	〃
	医療法人同愛会博愛病院（内科）	米子市両三柳 1880	〃
	野口内科クリニック	米子市角盤町 4-5	H23.8.1～
眼科 5	前嶋眼科医院	鳥取市元町 226	H11.4.1～
	おけがわ眼科	鳥取市叶 293-12	H28.4.1～
	医療法人井東医院	倉吉市上灘町 172	H14.8.1～
	富永眼科医院	米子市富士見町 2-172	H11.4.1～
	ふなこし眼科ペインクリニック	米子市紺屋町 15	H28.4.1～
性感染症 (STD) 7	吉野・三宅ステーションクリニック	鳥取市扇町 176	H20.1.1～
	鳥取赤十字病院	鳥取市尚徳町 117	H11.4.1～
	鳥取産院	鳥取市吉方温泉 1-653	H29.10.1～
	医療法人清生会谷口病院	倉吉市上井町 1-13	H11.4.1～
	山本泌尿器クリニック	米子市車尾南 1-8-32	H20.4.1～
	医療法人同愛会博愛病院	米子市両三柳 1880	H11.4.1～
	脇田産婦人科医院	米子市中町 123-5	H22.8.1～
基幹 5	鳥取市立病院	鳥取市的場 1-1	H11.4.1～
	鳥取県立中央病院	鳥取市江津 730	〃
	鳥取県立厚生病院	倉吉市東昭和町 150	〃
	鳥取県済生会境港総合病院	境港市米川町 44	〃
	鳥取大学医学部附属病院	米子市西町 36-1	〃

指定届出機関（定点把握対象の5類感染症病原体定点医療機関）

平成30年12月31日現在

（1）小児科病原体定点

東部	こどもクリニックふかざわ	鳥取市南隈 565
	鳥取県立中央病院	鳥取市江津 730
中部	鳥取県立厚生病院（小児科）	倉吉市東昭和町 150
西部	こどもクリニックかさぎ	米子市中町 76-2
	医療法人同愛会博愛病院（小児科）	米子市両三柳 1880
	鳥取大学医学部附属病院（小児科）	米子市西町 36-1
	岡空小児科医院	境港市浜ノ町 127

（2）インフルエンザ病原体定点（指定提出機関）※小児科3、内科2選定

東部	こどもクリニックふかざわ	鳥取市南隈 565
	鳥取県立中央病院（内科）	鳥取市江津 730
中部	鳥取県立厚生病院（小児科）	倉吉市東昭和町 150
西部	こどもクリニックかさぎ（小児科）	米子市中町 76-2
	野口内科クリニック（内科）	米子市角盤町 4-5

（3）眼科病原体定点

東部	おけがわ眼科	鳥取市叶 293-12
中部	医療法人井東医院	倉吉市上灘町 172
西部	ふなこし眼科ペインクリニック	米子市紺屋町 15

（4）基幹病原体定点

東部	鳥取県立中央病院	鳥取市江津 730
中部	鳥取県立厚生病院	倉吉市東昭和町 150
西部	鳥取大学医学部附属病院	米子市西町 36-1

鳥取県感染症対策協議会情報解析部会委員名簿(平成 30 年)

機 関 等	職 名	氏 名	備 考
鳥取大学医学部医学科 感染制御学講座 ウイルス学分野	教 授	景 山 誠 二	
鳥取大学医学部	講 師	村 上 潤	
公益社団法人 鳥取県西部医師会	理 事	瀬 口 正 史	
鳥取赤十字病院第二小児科	部 長	松 下 詠 治	
北室内科医院	院 長	北 室 知 巳	
鳥取県立厚生病院	副 局 長	岡 田 隆 好	

平成30年感染症発生動向調査概要

1 定点把握対象感染症

(1)小児科・インフルエンザ・眼科・基幹定点報告疾病

平成30年の報告患者数は25,228件であり、平成29年より1,102件の増加であった。

報告数の多い疾病は、インフルエンザ(44.5%)、感染性胃腸炎(25.2%)、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(17.8%)の順であった。平成29年に比較してインフルエンザが著しく増加した(+55.8%)。

1定点・1週当たりの患者報告数で全国平均と比較して高いものは無菌性髄膜炎(2.33倍)、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(2.09倍)等であった。

(2)性感染症(STD)定点報告疾病

性感染症(STD)定点報告対象疾病の4疾病(性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症)の全報告件数は492件と昨年より16件増加している(P14表5、P16図2-1参照)。

いずれも男性の割合が高く、年齢については、20歳～40歳代に多かった。

(3)基幹定点報告疾病

基幹定点報告対象の3疾病(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症)の全報告数は179件と昨年より4件増加している。

2 全数把握対象感染症

(1)1類感染症

全国、鳥取県とも発生はなかった。

(2)2類感染症

鳥取県では、結核66件の報告があった。

(3)3類感染症

鳥取県では、腸管出血性大腸菌感染症22件の報告があった。

(4)4類感染症

鳥取県では、レジオネラ症18件、つつが虫病5件、A型肝炎3件、E型肝炎2件、デング熱1件、日本紅斑熱1件、レプトスピラ症1件の報告があった。

(5)5類感染症

鳥取県では、百日咳61件、梅毒28件、侵襲性肺炎球菌感染症13件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症8件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症7件、アメーバ赤痢6件、急性脳炎(ウエストナイル脳炎・日本脳炎等を除く)5件、破傷風5件、クロイツフェルト・ヤコブ病3件、侵襲性インフルエンザ菌感染症3件、播種性クリプトコックス症3件、後天性免疫不全症候群2件、水痘(入院例に限る。)2件、風しん2件の報告があった。

3 病原体検査状況

受入検体件数375件で、多い順に感染性胃腸炎101件、腸管出血性大腸菌感染症73件、インフルエンザ57件、流行性角結膜炎26件、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び無菌性髄膜炎各14件等である。

16疾患を中心に13種類31型(血清型、遺伝子型、遺伝子型および遺伝子群を含む)のウイルス・リケッチア・細菌が分離・検出された。

(1)腸管出血性大腸菌感染

O157 が 1 件、O103 が 2 件分離同定された。

(2)日本紅斑熱

日本紅斑熱リケッチアが 2 件検出された。陽性判定は、すべて遺伝子検査によった。

(3)急性脳炎

コクサッキーウイルス A4 型が検出された。

(4)侵襲性肺炎球菌感染症

すべて非ワクチン株(13 価肺炎球菌結合ワクチンに係る)であった。

(5)風しん

風しんウイルスが 1 件検出された。

(6)咽頭結膜熱

アデノウイルス 9 件が分離・検出された。

(7)A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

A 群溶血性レンサ球菌が 3 件分離された。

(8)感染性胃腸炎

ノロウイルス、サポウイルス、A 群ロタウイルス、アデノウイルス 40/41 型が検出された。ノロウイルス G II 型が 23 件と最も多かった。

(9)手足口病

エコーウイルス 18 型が 2 件等分離・検出された。

(10)ヘルパンギーナ

コクサッキーウイルス A4 型が 3 件等分離・検出された。

(11)インフルエンザ(インフルエンザ様疾患も含む)

2017/18 シーズンに AH3 型は 21 件、A(H1N1)2009 型は 13 件、B 型山形系統が 24 件、B 型ビクトリア系統が 1 件検出された。2018/19 シーズンに AH3 型は 20 件、A(H1N1)2009 型は 10 件、B 型ビクトリア系統が 1 件検出された。両シーズンとも、A(H1N1)2009 型についてタミフル耐性遺伝子は検出されたものはなかった。

(12)流行性角結膜炎

アデノウイルス 20 件が分離・検出された。そのうち、54 型が 14 件と最も多かった。

(13)無菌性髄膜炎

エンテロウイルスが 5 件等分離検出された。

(14)RS ウイルス感染症

RS ウイルスが 4 件検出され、3 件は B 亜型、1 件は A 亜型であった。

(15)水痘

ヘルペスウイルス 3 が 2 件検出された。